

看護理論	1年 前期	2単位 (30時間)	必修
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

諸学問の知識を基盤とした看護知識体系の構造とその意義を理解し、より科学的で卓越した看護実践を目指して理論やモデルを根拠として活用することや、卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考することができる。

【到達目標】

1. 看護知識体系の構造とその意義を説明できる。
2. 看護理論または看護モデルを選択し、その看護理論または看護モデルについて概要を説明し、評価できる。
3. 選択した看護理論または看護モデルを事例に適用し、卓越した看護実践について根拠をもって説明できる。
4. 卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護知識の体系化とその意義, 理論と理論の適用範囲	村瀬 智子
2	看護モデル・理論開発の系譜	村瀬 智子
3	主要な看護モデル・理論の特徴と事例への適用 各看護理論または看護モデル(1~10)の背景、前提、主要概念の定義等の概説と理論評価及び事例への適用について、学生の選択学習による発表と討論を行う。この選択学習の過程において、卓越した看護実践について根拠をもって説明すると共に、卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考できる。 1. ナイチンゲール: 創まりの看護理論『看護覚え書』	村瀬 智子
4	2. ヘンダーソン: 人間のニードと看護の定義	村瀬 智子
5	3. ペプロー: 人間関係の看護論	村瀬 智子
6	4. トラベルビー: 人間対人間の関係モデル	村瀬 智子
7	5. ロイ: 人と環境の適応モデル	村瀬 智子
8	6. オレム: セルフケア不足理論	村瀬 智子
9	7. ロジャーズ: ユニタリ・ヒューマン・ビーイングスの科学	村瀬 智子
10	8. M. ニューマン: 意識の拡張としての健康の理論	村瀬 智子
11	9. ワトソン: ケアリングの哲学と科学	村瀬 智子
12	10. レイニンガー: 文化ケアの多様性と普遍性	村瀬 智子
13	その他の中範囲・小範囲理論と看護理論の評価	村瀬 智子
14	理論の研究への活用: 理論的枠組み、調査票作成	村瀬 智子
15	理論構築の方法・まとめ	村瀬 智子

授業方法

1・2回及び13回~15回は講義と討議を行い、3回~12回は学生のプレゼンテーション及び演習を行う(新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施)。

時間外学習

看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として成り立っています。それらを含めて看護理論を理解するためには、理論書を読むことが必要です。そのため、理論の概要を理解するだけでも、予習・復習を含めて1講義につき2週間程度の時間外学習は必要になります。

教科書

「看護理論家の業績と理論評価」, 第2版, 筒井真優美 編, 医学書院
N01/Ts93/2nd, 9784260039611

「未来共創の哲学: 大統一生命理論に挑む」, 村瀬雅俊, 村瀬智子著, 言叢社
461/Mu57, 9784862090799

参考図書

「看護理論家とその業績」,第3版,アン・マリナー・トメイ,マーサ・レイラ・アリグッド 編著;都留伸子監訳,医学書院,N01/Ma52/3rd,9784260333399
「フォーセット看護理論の分析と評価」,新訂版,J.フォーセット著;太田喜久子,筒井真優美監訳,医学書院,N01/F16,9784260006347
「看護における理論構築の方法」,Lorraine Olszewski Walker, Kay Coalson Avant著;中木高夫,川崎修一訳,医学書院,N01/W38,9784260006880
「Strategies for Theory Construction in Nursing」,6th ed,Lorraine Olszewski Walker, Kay Coalson Avant著,Pearson,N01/W36/6th,9780134754079
「未来から描くケア共創看護学:自然・生命・こころ・技の循環」,村瀬智子,村瀬雅俊著,大学教育出版,2021年刊行予定
適宜、紹介する。

評価方法

課題レポート(40%)、プレゼンテーション (20%)、グループワーク(20%)、課題の提出(10%)、受講態度(10%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

看護師としての勤務経験をもつ担当教員が、専門知識や看護学的視点について、本科目で教授する。

看護倫理	1年 後期	1単位 (15時間)	必修
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護専門職者として人々の尊厳を保つために必要な倫理に関する基礎知識を学修し、事例をもとに倫理調整のプロセスを探究する。

【到達目標】

1. 看護倫理の基盤となる概念が理解できる。
2. 医療及び看護における倫理に関する歴史の変遷が理解できる。
3. 看護実践における倫理的課題と、その検討方法が理解できる。
4. 事例に基づき倫理調整のプロセスを考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護倫理の基盤となる概念：尊厳、アドボカシー、インフォームドコンセント、守秘義務とプライバシー	山田 聡子
2	医療・看護倫理の歴史の変遷 徳の倫理と原則の倫理、看護者の倫理綱領	山田 聡子
3	看護実践における倫理的課題：母性・小児領域	山田 聡子
4	看護実践における倫理的課題：老年・精神領域	山田 聡子
5	看護実践における倫理的課題：救急・終末期の場面	山田 聡子
6	倫理的課題の検討方法：4ステップモデル、臨床倫理4分割法	山田 聡子
7	事例検討：関係者間（医療者、患者-家族）の意見の不一致	山田 聡子
8	事例検討：ジレンマを抱える看護師	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2・6回、プレゼンテーション・討議：第3-5、7-8回
すべてZOOMによるオンライン授業を予定している。変更がある場合は速やかに連絡する。

時間外学習

プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
レポート課題の作成に向けた準備を進める（適宜）。
関連事項を学習し討議に備える（適宜）。
初回講義時にプレゼンテーション課題とレポート課題を提示する。

教科書

「看護師の倫理調整力；専門看護師の実践に学ぶ」，鶴若麻理，長瀬雅子編，日本看護協会出版会，N89/Ts88，9784818021075

参考図書

「看護倫理学；看護実践における倫理的基盤」，松木光子編，ニューヴェルヒロカワ，N01.1/Ma78，9784861740374
「看護倫理；よい看護・よい看護師への道しるべ」（看護学テキストnice），改訂第2版，小西恵美子編，南江堂，N01.1/Ko75/2nd，9784524264124
適宜、紹介する

評価方法

プレゼンテーション（30%）、討議参加状況（20%）、レポート（50%）

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

赤十字と看護	1年 後期	2単位 (30時間)	必修
担当: 小林 洋子・大川 四郎			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

赤十字の看護の歴史を通して歴史の中にある看護師の養成や活動を探求し、赤十字の看護師が果たした役割とその背景を学ぶ。さらにさまざまな立場にある人々のあらゆる健康レベルに応じた看護の実践に赤十字の基本原則を基盤とした赤十字の看護がどのように寄与することができるのか考察する。

【到達目標】

1. 赤十字の看護の歴史から看護師養成の背景と目的を理解できる。
2. 赤十字の看護の歴史にある看護活動から看護師の役割を理解できる。
3. 赤十字の基本原則および国際的な枠組みから赤十字を理解できる。
4. 赤十字の活動と国際人道法の関係を理解できる。
5. 赤十字の基本原則を基盤とした赤十字の看護について考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 赤十字と日常生活のつながり	小林 洋子 大川 四郎
2	赤十字の創設 - 赤十字国際委員会の発足とジュネーブ条約	大川 四郎
3	博愛社の創設 - パリ・ウィーン両万博における佐野常民と赤十字パビリオンとの出会い、岩倉遣欧使節団に対するスイス側からの働きかけ	大川 四郎
4	博愛社から日本赤十字社への改組 - 日本政府によるジュネーブ条約調印・批准	大川 四郎
5	日本赤十字社における看護師の養成 - 看護人 (= 男性看護師) の養成、救護看護婦養成の開始とその根本方針	大川 四郎
6	日本赤十字社による戦時救護活動(1) - 日清戦争、日露戦争、磐梯山噴火、濃尾大地震	大川 四郎
7	日本赤十字社による戦時救護活動(2) - 第一次世界大戦、関東大震災、第二次世界大戦	大川 四郎
8	1949年のジュネーブ条約大改正 - 両大戦の経験に依拠戦後における日本赤十字社の機構改組	大川 四郎
9	国際人道法の成立 - ジャン・ピクテと赤十字基本原則 国際赤十字・赤新月社連盟の発足と拡大	大川 四郎
10	国際人道法の拡大 - ジュネーブ条約第一追加議定書、同第二追加議定書	大川 四郎
11	日本赤十字社の平時の活動: 組織, ネットワーク	小林 洋子
12	看護制度改革, 看護教育制度改革	小林 洋子
13	看護制度改革と日本赤十字の看護教育	小林 洋子
14	赤十字における看護実践と行動規範	小林 洋子
15	赤十字の理念に基づく看護実践, 討議	小林 洋子

授業方法

第1回～10回：講義、第11回～15回：講義、および関連資料に基づき発表・討議

時間外学習

- ・ 授業テーマに関する予習(教科書の指定箇所を読む)と復習を適宜行い、各授業への参加および発表・討議に参加する準備を行う。
- ・ 国内外の人道や、国際人道法、赤十字に関するニュースに関心を払い把握する。

教科書

「戦争と国際人道法：その歴史と赤十字のあゆみ」, 井上忠男著, 東信堂, R0.12/157, 9784798913124

参考図書

「日本赤十字社と人道援助」, 黒沢文貴, 河合利修編, 東京大学出版会
R1.02/Ku76, 9784130262217
「世界と日本の赤十字 : 世界最大の人道支援機関の活動」, 第2版, 梶居孝, 森正尚著
, 東信堂 , R0.7/Ma67/2nd, 9784798914930
「ドクター・ジュノーの戦い : エチオピアの毒ガスからヒロシマの原爆まで」, 増補版
マルセル・ジュノー著 ; 丸山幹正訳, 勁草書房, R0.2/J96, 4326750375
「赤十字標章の歴史 : "人道のシンボル"をめぐり国家の攻防」, フランソワ・ブニオン
著 ; 井上忠男訳, 東信堂 , R0.11/B85, 9784798901404
「解説赤十字の基本原則 : 人道機関の理念と行動規範」, 第2版, ジャン・ピクテ著, 井上
忠男訳, 東信堂, R0.1/P65/2nd, 9784887139831
「赤十字と国際人道法: 普及のためのハンドブック」, 第7版改訂, 日本赤十字社国際部編
, 日赤サービス, R0.12/N77/7th
「国際人道法」, 新版 再増補, 藤田久一著, 有信堂高文社, R0.12/F67, 4842040408
「医師・看護師の有事行動マニュアル : 医療救護者の役割と権利義務」, 第2版, 井上忠
男著, 東信堂 , 394/I57/2nd, 9784798900582
「戦争と人道支援 : 戦争の被災をめぐり人道の政治」, 上野友也著, 東北大学出版会
, 319/Ka37, 9784861631818
「戦争と看護婦」, 川嶋みどり [ほか] 著, 国書刊行会 , N02.9/Ka84, 9784336060419
「紛争地の看護師」, 白川優子著, 小学館 , 329.36/Sh83, 9784093897785
「ナイチンゲール : 神話と真実」, 新版, ヒュー・スモール著 ; 田中京子訳 , みすず
書房, N02.8/N71, 9784622087588
「救護体験記 : 60・8・12日航機墜落事故現場から」, 日本赤十字社振興部報道課編, 日
本赤十字社 , R1.02/N77
「From Solferino to Tsushima」(History of the International Committee of the Red
Cross1), Pierre Boissier, Henry Dunant Institute, R0.2/H76/1, 2880440122
「From Sarajevo to Hiroshima」(History of the International Committee of the Red
Cross2), André Durand, Henry Dunant Institute, R0.2/H76/2, 2880440092
「Florence Nightingale : the Crimean War」(The collected works of Florence
Nightingale14), Lynn McDonald, Wilfrid Laurier University
Press, N02.8/N71/14, 9780889204690
「Florence Nightingale on wars and the war office」(The collected works of
Florence Nightingale15), Lynn McDonald, Wilfrid Laurier University
Press, N02.8/N71/15, 9780889204706
「Florence Nightingale and hospital reform」(The collected works of Florence
Nightingale16), Lynn McDonald, Wilfrid Laurier University
Press, N02.8/N71/16, 9780889204713

評価方法

レポート(80%), 授業への参加(討議への参加, 授業内・後の質問を含む)(20%)

フィードバック

授業、および討議の際に、適宜フィードバックする。

その他

なし

教育方法・評価論	1年 前期	1単位（15時間）	選択
担当：龍崎 忠			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

これからの社会を生きる人間に求められる資質・能力をいかにして育むか、という教育方法の根本的な課題を検討することを通して、指導に活かす評価の在り方にも焦点を当てつつ、教育方法・評価の機能と役割について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

1. とくに学校教育において求められる資質・能力とは何かを説明できる。
2. 資質・能力を育むための具体的な方法について説明できる。
3. 教育評価についての基本的な理解を基に、自身の教育観や指導観を深めることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：教育方法とは何か	龍崎 忠
2	教育方法の歴史：教えることは学ぶこと	龍崎 忠
3	主体的・対話的で深い学びの実現のために	龍崎 忠
4	求められる資質・能力：グローバル化する社会を生き抜く	龍崎 忠
5	教育評価とは何か：その機能と役割	龍崎 忠
6	なぜ評価が必要なのか(1)：PDCAと教育	龍崎 忠
7	なぜ評価が必要なのか(2)：指導と評価の一体化	龍崎 忠
8	なぜ評価が必要なのか(3)：子ども理解は自己理解	龍崎 忠

授業方法

講義を中心に展開する。具体的なケースを取り上げて参加者で議論する機会ももちたい。

時間外学習

取り上げた内容について理解や関心が深まったものをさらに調べる（各回ごとに2時間）。

教科書

なし
特に指定しない。

参考図書

初回に文献一覧を配付する。

評価方法

各回でのリアクション・ペーパー（受講状況を含む、50%）と試験（もしくはレポート、50%）によって総合的に実施する。

フィードバック

リアクション・ペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて各回で全体でシェアリングする。

その他

研究・教育者コース必修

統計学	1年 前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

統計学（記述統計、推定統計）の総合的知識を習得し、統計解析パッケージ SPSS を用いた統計分析の方法を習得し、各自の研究や実務に用いることができることを目的とする。

【到達目標】

1. 統計分析を行うための仮説を示すことができる。
2. データを SPSS で統計分析することができる。
3. 統計の分析結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	統計学概論（1） 統計学の仕組み	森田 一三
2	統計学概論（2） 統計学の成り立ち	森田 一三
3	SPSS の紹介と統計分析の準備	森田 一三
4	記述統計：度数分布 / エクセルとの連携	森田 一三
5	記述統計：代表値	森田 一三
6	記述統計：散布度	森田 一三
7	間隔・比尺度同士の関係	森田 一三
8	順序尺度同士の関係	森田 一三
9	名義尺度同士の関係：カイ二乗分析	森田 一三
10	名義尺度同士の関係：オッズ比	森田 一三
11	比率の差の分析：カイ二乗分析	森田 一三
12	平均の差の分析：t 検定	森田 一三
13	差を分析する：一元配置分散分析	森田 一三
14	中央値の差の分析	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ・授業中に課題となったことについて復習してきてください。

教科書

「SPSS によるやさしい統計学」, 第2版, 岸学著, オーム社, 417/Ki56/2nd, 9784274068706

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

パソコンの基礎的な操作（ファイル管理等）およびエクセルの基礎的な操作ができること。データを保存するためのUSBメモリ（空き容量は1GB程度あれば充分）を持参すること。

統計学	1年 後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護、公衆衛生の課題を理解し、効果的な対策を企画し、その実践的な評価を行うためには、統計的解析が必須である。ここでは、統計的推論、測定の信頼性と妥当性、因子分析やロジスティック回帰分析など、看護、公衆衛生の統計的解析に必要な知識とスキルを身につけることを目指す。このために、さまざまなデータについて実際に SPSS を用いて分析をして習得する。

【到達目標】

1. データに適した統計分析手法を決定できる。
2. SPSSを用いてデータの統計分析を行うことができる。
3. 統計分析で得られた結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	データの要約	森田 一三
2	統計的推論	森田 一三
3	分散分析	森田 一三
4	回帰分析	森田 一三
5	測定の信頼性	森田 一三
6	測定の妥当性	森田 一三
7	主成分分析	森田 一三
8	因子分析	森田 一三
9	クラスター分析	森田 一三
10	判別分析	森田 一三
11	ロジスティック回帰分析	森田 一三
12	対数線形モデル	森田 一三
13	生存時間データの解析	森田 一三
14	多変量解析法	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ・授業中に課題となったことについて復習してきてください。

教科書

「SPSSによる統計データ解析:医学・看護学、生物学、心理学の例題による統計学入門」,改訂新版,柳井晴夫,緒方裕光編著,現代数学社,417/Y54,9784768705285

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

選択共通科目「統計学」を履修していること。選択共通科目「統計学」で扱う統計手法について SPSSを用いて実施できること。
データを保存するためのUSBメモリ（空き容量は1GB程度あれば充分）を持参すること。

看護研究（概論）	1年 前期	1単位（15時間）	選択
担当：野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護研究に求められる知識の全体像を理解し、看護研究の基礎的知識を獲得する。

【到達目標】

1. 看護研究の必要性や重要性を説明できる。
2. 看護研究における倫理を説明できる。
3. 研究の問いを明らかにするための文献検索と文献検討の方法を説明できる。
4. 量的および質的アプローチの研究方法を説明できる。
5. 研究計画書を作成する意義とその内容を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護研究とは何か 教科書 第1章	野口 眞弓
2	研究の問い 教科書 第2章	野口 眞弓
3	看護研究における倫理 教科書 第3章	野口 眞弓
4	文献検索と文献検討 教科書 第4章	野口 眞弓
5	看護研究の方法 教科書 第5章	野口 眞弓
6	量的なアプローチの研究方法 教科書 第6章	野口 眞弓
7	質的なアプローチの研究方法	野口 眞弓
8	研究計画書の作成 教科書 第13章	野口 眞弓

授業方法

第1～8回 講義

新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、事前に教科書の指定部分を読む。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを再度読み直すことにより知識を深める。

教科書

「黒田裕子の看護研究 Step by Step」,第5版,黒田裕子,医学書院,N07/Ku72/5th,
9784260030151

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [20%]、文献検討のレポート [40%]、研究計画書のレポート [40%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

専門看護師コース必修
認定看護管理者コース必修

看護研究（量的研究法）	1年 前期	2単位（30時間）	選択
担当：野口 眞弓・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

量的研究の方法を理解し、看護研究を行うための基礎的能力を獲得する。

【到達目標】

1. 研究問題、研究設問と仮説、文献レビューや概念的文脈の開発を説明することができる。
2. 量的研究のデザインについて説明することができる。
3. 標本抽出およびデータ収集について説明することができる。
4. データの質の評価について説明することができる。
5. 量的研究をクリティークすることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	研究問題、研究設問と仮説 第4章	野口 眞弓
2	文献レビュー 第5章	野口 眞弓
3	概念的文脈の開発 第6章	野口 眞弓
4	量的研究のデザイン 第8章	野口 眞弓
5	量的研究における厳密性の強化 第9章	野口 眞弓
6	さまざまな目的に応じた量的研究 第10章	野口 眞弓
7	量的研究のクリティークの視点 第15章（参考文献）	野口 眞弓
8	標本抽出のデザイン 第13章	森田 一三
9	標本抽出のデザインの実例の検討	森田 一三
10	データ収集計画のデザインと実施 第14章	森田 一三
11	データ収集計画のデザインと実施の実例の検討	森田 一三
12	自己報告データの収集、観察データの収集 第15章、第16章	森田 一三
13	データの収集の実例の検討	森田 一三
14	データの質の評価 第18章	森田 一三
15	量的研究のクリティーク	野口・森田

授業方法

第1～14回 講義・討論、第15回 発表
新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、事前に教科書の指定部分を読む。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを再度読み直すことにより知識を深める。

教科書

「看護研究 原理と方法」,第2版, Polit, D.F.& Beck, C.T.著 /近藤潤子監訳, 医学書院, N07/P76/2nd, 9784260005265

参考図書

「黒田裕子の看護研究 Step by Step」,第5版, 黒田裕子, 医学書院, N07/Ku72/5th, 9784260030151

評価方法

参加の状況（20%）、プレゼンテーション（20%）、量的研究のクリティークのレポート（60%）により総合評価する。

フィードバック

討議、発表の中で講評を行う。

その他

なし

看護研究（質的研究法）	1年 後期	2単位（30時間）	選択
担当：村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

質的研究の意義を理解し、看護の実践や教育の場で共通して活用できる質的な看護研究の基礎的知識を深める。さらに質的研究を用いた論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用方法を判断する能力を高める。

【到達目標】

1. 基本的な質的研究の方法論を中心に、多様な質的研究法の理論的前提・哲学的基盤や理論の背景・データ収集、分析方法等について理解できる。
2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方について考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス、質的研究の意義と方法論	村瀬 智子
2	看護実践における様々な質的研究の可能性と限界	村瀬 智子
3	質的研究の理論と哲学的背景： 科学性と一般化・理論化に関する問題、看護援助方法、および技術の開発・推進	村瀬 智子
4	援助者の視点と研究の倫理的限界 質的研究におけるサンプリングとデータ収集、分析視点	村瀬 智子
5	事例研究：歴史的背景、理論的前提・哲学的基盤、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
6	事例研究の文献クリティーク	村瀬 智子
7	質的記述的研究：歴史的背景、理論的前提・哲学的基盤、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
8	質的記述的研究の文献クリティーク	村瀬 智子
9	グランデッドセオリー： 歴史的背景、理論的前提・哲学的基盤、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
10	グランデッドセオリーの文献クリティーク	村瀬 智子
11	エスノグラフィー： 歴史的背景、理論的前提・哲学的基盤、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
12	エスノグラフィーの文献クリティーク	村瀬 智子
13	現象学的アプローチ： 歴史的背景、理論的前提・哲学的基盤、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
14	現象学的アプローチの文献クリティーク	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

1～4回及び15回は講義と討議を行い、5回～14回は学生のプレゼンテーション及び演習を行う（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）。

時間外学習

大学院においては主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考書・文献等を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「バーンズ&グローブ看護研究入門:評価・統合・エビデンスの生成」, Susan K.Grove, Nancy Burns, Jennifer R.Gray原著; 黒田裕子他監訳, エルゼビア・ジャパン, N07/B93, 9784860343002

「質的研究入門:『人間の科学』のための方法論」, 新版, ウヴェ・フリック著; 小田博志他訳, 春秋社, 361.9/F33, 9784393499108

「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」, 北素子, 谷津裕子著, 医学書院, N07/Ki61, 9784260009577

参考図書

「Burns and Grove's the practice of nursing research」, 9th ed. , Jennifer R. Gray, Susan K. Grove, Suzanne Sutherland著, Elsevier, N07/B93/9th, 9780323673174

「人間科学のためのナラティブ研究法」, Catherine Kohler Riessman著; 大久保功子, 宮坂道夫監訳, クオリティケア, 361.16/R38, 9784904363447

「質的研究をめぐる10のキーエスチョン: サンデロウスキー論文に学ぶ」, マーガレット・サンデロウスキー著; 谷津裕子, 江藤博之訳, 医学書院, N07/Sa62, 9784260018951

「参加観察法入門」, ジェイムズ P. スプラッドリー著; 田中美恵子, 麻原きよみ監訳, 医学書院, 361.9/Sp7, 9784260010504

「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践: 質的研究への誘い」, 木下康仁著, 弘文堂, 361.16/Ki46, 9784335550898

「現象学的看護研究: 理論と分析の実際」, 松葉祥一, 西村ユミ編集, 医学書院, N07/Ma73, 9784260020480

「エスノグラフィー」(看護における質的研究 1), Janice M. Roper, Jill Shapira 共著; 麻原きよみ, グレック美鈴共訳, 日本看護協会出版会, N07/Ka54/1, 4818010421

「エスノグラフィー入門:『現場』を質的研究する」, 小田博志著, 春秋社, 361.16/O17, 9784393499115

「未来共創の哲学: 大統一生命理論に挑む」, 村瀬雅俊, 村瀬智子著, 言叢社, 461/Mu57, 9784862090799

「未来から描くケア共創看護学: 自然・生命・こころ・技の循環」, 村瀬智子, 村瀬雅俊著, 大学教育出版, 2021年刊行予定
適宜、紹介する。

評価方法

授業態度(5%)、討論への参加(30%)

課題(65%)(プレゼンテーション45%、レポート20%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

看護師としての勤務経験を持つ担当教員が、専門知識と看護的視点、思考方法等について、本科目で教授する。

セルフマネジメント論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

急性期病院では、入院期間が短縮化され、患者自身が退院後の生活をマネジメントする必要がある。従来、患者教育は説明する方法が用いられ、効果の測定は困難であった。行動科学における行動の原理に基づき、セルフマネジメントの技法を理解し、実施できることを目的とする。

【到達目標】

1. 基本的な行動原理として、強化、消去、弱化、刺激性制御を理解できる。
2. 行動を観察し、三項随伴性に基づく分析ができる。
3. 新しい行動を形成する方法として、シェイピング、チェイニングを理解できる。
4. 望ましい行動を増やす方法として、分化強化、先行子操作を理解できる。
5. セルフマネジメントの技法を理解し、実施できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	人間の行動と行動変容	鎌倉 やよい
2	行動を観察する視点：三項随伴性とABC分析	鎌倉 やよい
3	基本的な行動原理：強化・弱化・消去	鎌倉 やよい
4	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
5	基本的な行動原理：刺激性制御（弁別と般化）	鎌倉 やよい
6	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
7	新しい行動を形成する方法：シェイピング・チェイニング	鎌倉 やよい
8	新しい行動を形成する方法：プロンプトと刺激性制御の転移	鎌倉 やよい
9	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
10	望ましい行動を増やす技法：分化強化	鎌倉 やよい
11	望ましい行動を増やす技法：先行子操作	鎌倉 やよい
12	望ましい行動を増やす技法：セルフマネジメント	鎌倉 やよい
13	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
14	シングルケース研究法による行動変容の測定	鎌倉 やよい
15	まとめ	鎌倉 やよい

授業方法

基礎的な講義の後に演習を行い、理解を促す。
新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する。

時間外学習

基礎的な講義には予習して臨み、事例に基づく演習において理解を深めること。
事例演習に関する課題を作成して、理解を深めること。

教科書

「行動変容法入門」, レイモンド・G・ミルテンバーガー著, 園山繁樹 [ほか] 訳, 二瓶社, 146.8/Mi29, 9784861080258

参考図書

「応用行動分析学」, ジョン・O・クーパー他著, 中野良顯 (訳), 明石書店, 140.18/C87, 9784750338262

評価方法

事例演習に関する課題の提出〔40%〕、受講態度（参加・貢献度）〔10%〕、レポート〔50%〕

フィードバック

課題に関する回答、レポートについては、授業においてフィードバックする。

その他

成人看護学領域の学生は必修とする。

感染制御論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 下間 正隆・東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療・看護サービスの受け手に安全な医療・看護サービスを提供することは看護管理にとって最優先の課題である。安全を脅かす感染から病院内の患者と医療従事者を守るためには、「微生物」と「感染対策に対する人の行動」を相手にしなければならない。看護管理者として知っておくべき感染制御に関する知識と、感染予防のための医療者アドヒアランス向上のための取り組みについて学習する。

【到達目標】

1. 感染対策の基本を説明できる。
2. 3つの感染経路別対策と感染防護対策を説明できる。
3. 耐性菌とその対策について、説明できる。
4. アウトブレイクの予防と対策を説明できる。
5. 職業感染予防と管理について説明できる。
6. 感染対策ソフトによる医療関連感染サーベイランスについて理解できる。
7. サーベイランスの4つの視点から、感染予防とケアを説明できる。
8. 看護管理の視点から、医療者アドヒアランス向上のための取り組みについて理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	感染制御論概論： 院内感染を正しく理解して、適切に行動する 病院内で感染を起こす微生物	下間 正隆
2	感染対策の基本： スタンダードプリコーション（SP：標準予防策）；手指消毒	下間 正隆
3	3つの感染経路 感染経路別対策：接触感染対策，飛沫感染対策，空気感染対策	下間 正隆
4	個人防護具（Personal Protective Equipment：PPE）による対策	下間 正隆
5	環境に対する感染防護対策	下間 正隆
6	耐性菌：MRSA対策	下間 正隆
7	耐性菌：薬剤耐性菌の問題	下間 正隆
8	アウトブレイク：予防，早期対応，事例	下間 正隆
9	アウトブレイク対策：MRSA 細菌と抗菌薬	下間 正隆
10	アウトブレイク対策：ノロウイルス，インフルエンザ	下間 正隆
11	職業感染予防と管理 感染対策ソフトによる情報共有と医療関連感染サーベイランス	下間 正隆
12	侵襲的処置に関連する感染に対する感染予防対策 血流感染（BSI：Blood Stream Infection）	東野 督子
13	尿路感染（UTI：Urinary Tract Infection）	東野 督子
14	人工呼吸器関連肺炎（VAP：Ventilator Associated Pneumonia）	東野 督子
15	手術部位感染（SSI：Surgical Site Infection）	東野 督子

授業方法

第1回～第15回：講義，討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う（適宜）。

教科書

「イラストみんなの感染対策」，下間正隆ほか著，照林社，498.6/Sh54 ，9784796523721
適宜資料を提供する。

参考図書

「院内感染予防必携ハンドブック」(Primary Nurse Series),第2版,洪愛子編,中央法規出版,N74.2/Ko95/2nd,9784805837337

評価方法

試験(60%)、レポート(30%)、授業への参加度(10%)から総合的に評価する。

フィードバック

授業内の質問について、各授業においてフィードバックする。

その他

認定看護管理者コースの学生は履修が望ましい。

病態生理学	1年 前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 下間 正隆・福間 長知・鎌倉 やよい・巻野 雄介			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

病態生理学は、解剖学や生理学などで学習する正常な構造や機能を基礎に、正常な機構の破綻により発生した各種疾患の成り立ちについて学習する学問である。主要な症状・徴候の病態生理を学ぶことによって、臨床推論の基礎を修得することを目的とする。

【到達目標】

1. 病態生理学における病態推論の基本を理解することができる。
2. 看護実践上、遭遇頻度が高く重要な症状・徴候の病態生理を理解することができる。
3. 症状・徴候から診断・治療に至る臨床推論の過程を理解することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	福間 長知
2	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	福間 長知
3	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	福間 長知
4	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	福間 長知
5	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉 やよい
6	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉 やよい
7	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
8	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
9	呼吸機能障害に関する病態推論 ：呼吸困難	福間 長知
10	循環機能障害に関する病態推論 ：不整脈、ショック	福間 長知
11	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	巻野 雄介
12	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	巻野 雄介
13	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	下間 正隆
14	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	下間 正隆
15	造血・免疫機能障害に関する病態推論 ：出血傾向	巻野 雄介

授業方法

講義・演習（教員による講義、次に受講生によるプレゼンテーションを実施する。担当は開講後に調整する。）
新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する。

時間外学習

各回の内容について参考図書等に基づき事前に学習し、授業において相互に討議ができるよう準備していただきたい。特に、プレゼンテーション時には、十分に復習して準備し、十分に論議ができる内容となることを期待する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「病態生理学」(ナーシング・グラフィカ, 疾病の成り立ち1), 第5版, 山内豊明編集, メディカ出版, N08/N99/1, 9784840461290
「カラー図解症状の基礎からわかる病態生理」, 第2版, ステファン・シルバーナグル, フロリアン・ラング著, 松尾理監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 491.6/Si4/2nd, 9784895926881
「目でわかる病態生理」, 松野一彦著, メディカルサイエンスインターナショナル, 491.6/Ma83, 4895922723
「絵でみる脳と神経: しくみと障害のメカニズム」, 第4版, 馬場元毅著, 医学書院, N11.13/B12/4th, 9784260027830
そのほか適宜紹介する。

評価方法

受講態度 30%、レポート 70%

フィードバック

プレゼンテーション・討議に対してその場でフィードバックする。

その他

専門看護師コース必修

臨床薬理学	1年 前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 池田 義明・山田 浩雅			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

複雑な健康問題を抱えた対象の特性や症状をもとに、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、日常生活行動の調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るために、専門看護師としての知識と看護技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 対象者の病態に基づいた薬剤使用の判断に関するエビデンスを説明できる。
2. 小児、成人、高齢者等の各ライフステージの特徴も踏まえた薬物療法の特徴を学ぶ。
3. 対象者が安全で効果的な薬物療法を継続するための支援方法について学ぶ。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	薬理学の概念	池田 義明
2	小児・成人・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の管理	池田 義明
3	緊急応急処置（筋弛緩薬、局所麻酔薬、自律神経作用薬）	池田 義明
4	麻酔薬、疼痛薬、睡眠薬と投与後の患者モニタリング	池田 義明
5	神経症、気分障害、統合失調症、癲癇、パーキンソン病、認知症	池田 義明
6	慢性疾患管理に必要な薬剤（心臓血管作用薬）	池田 義明
7	抗炎症薬と回復力の促進	池田 義明
8	呼吸器系作用薬と回復力の促進	池田 義明
9	消化器系作用薬と症状調整	池田 義明
10	ホルモン系・生殖器系作用薬	池田 義明
11	神経・精神疾患患者への薬物療法と生活調整について	山田 浩雅
12	高度実践看護師が行う服薬管理能力向上のための援助技術	山田 浩雅
13	抗感染症薬と薬剤使用の判断および投与の患者モニタリング	池田 義明
14	抗悪性腫瘍薬、漢方薬	池田 義明
15	臨床薬理学関連の研究課題報告(プレゼンテーション)	池田 義明

授業方法

第1回～第14回：講義、第15回：発表

時間外学習

授業後は、わからないことはそのままにせず、調べたり聞いたりして理解を深める。(適宜)

教科書

「わかりやすい薬理学」, 第3版, 安原一、小口勝司編, ニューヴェルヒロカワ, 491.5/Y64/3rd, 9784861740541
適宜、資料を配布する。

参考図書

「薬がみえるvol.1」, 医療情報科学研究所編, メディックメディア, 492/Ku93/1, 9784896325492
「薬がみえるvol.2」, 医療情報科学研究所編, メディックメディア, 492/Ku93/2, 9784896325850
「薬がみえるvol.3」, 医療情報科学研究所編, メディックメディア, 492/Ku93/3, 9784896326406

評価方法

研究課題報告書(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)を合算する。

フィードバック

授業前後における疑問や質問は次回講義までにハンドアウトを作成してフィードバックする。

その他
専門看護師コース必修

ヘルスアセスメント	1年 後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 中島 佳緒里・山内 豊明			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践看護師として、複雑な健康問題をもった対象の身体・心理・社会的側面を包括的にとらえ、臨床看護判断を行うためのアセスメント能力を養う。

【到達目標】

1. ヘルスアセスメント (Health Assessment) の定義について説明できる。
2. 複雑な健康問題をもった対象のフィジカルアセスメント (Physical Assessment) を実施できる。
3. 臨床推論を用いて、対象の健康上の問題を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 看護師によるヘルス・アセスメントと臨床推論	中島 佳緒里
2	臨床推論における思考過程	中島 佳緒里
3	全身状態の把握, 栄養評価	中島 佳緒里
4	脳神経の診査	中島 佳緒里
5	症状・徴候からの推論	山内 豊明
6	呼吸器系 - 胸部	山内 豊明
7	呼吸器系 - 呼吸音	山内 豊明
8	循環器系 - 心音	山内 豊明
9	循環器系 - 末梢血管	山内 豊明
10	消化器系 - 腹部	山内 豊明
11	消化器系 - 食物摂取と感覚系	山内 豊明
12	運動系 - 骨格筋, 運動に関わる神経	中島 佳緒里
13	腎泌尿器系 - 腎の炎症, 尿路 (膀胱, 前立腺等), 浮腫	中島 佳緒里
14	症例検討	中島 佳緒里
15	症例検討	中島 佳緒里

授業方法

- ・講義, 演習
- ・第1・2回, 第5回～11回: 講義, 第3・4・12・13回: 演習, 第14～第15回: 発表、討論

時間外学習

- ・授業への参加準備, 関連文献を読む (適宜)。
- ・診査内容・項目に関連した形態機能学の知識, 代表的な疾患を確認する (1時間程度)。
- ・診査結果に基づく臨床推論の思考過程を復習する (30分程度)。

教科書

「フィジカルアセスメントガイドブック: 目と手と耳でここまでわかる」, 第2版, 山内豊明著, 医学書院, N10.12/Y46/2nd, 9784260013840
「フィジカルアセスメント」(看護がみえる3), 医療情報科学研究所編集, メディックメディア, N10.12/l67/3, 9784896327816

参考図書

「実践!フィジカル・アセスメント：看護者としての基礎技術」,改訂第3版,高橋照子,芳賀佐和子,佐藤富美子編集,金原出版,N10.12/067/3rd,9784307701884
「ベイツ診察法」,第2版,リン S. ビックリー,ピーター G. シラギ著,メディカル・サイエンス・インターナショナル,492.11/B41/2nd,9784895927987
「NANDA-I看護診断：定義と分類 2018-2020」,T. ヘザー・ハードマン編 ; 上鶴重美訳,医学書院,N74.1/N48/'18-20,9784260034432
「フィジカルアセスメントワークブック：身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる」,山内豊明著,医学書院,N10.12/Y46,9784260018326
「山内先生のフィジカルアセスメント：見る・聴く・触るを極める!技術編」(ナース専科BOOKS),山内豊明解説,エス・エム・エス,N10.12/Y46,9784844376125
「山内先生のフィジカルアセスメント：患者さんのサインを読み取る!症状編」(ナース専科BOOKS),山内豊明解説,エス・エム・エス,N10.12/Y46,9784844376071
「聞く技術：答えは患者の中にある答えは患者の中にある」,第2版,マーク・ヘンダーソン,ローレンス・ティアニー,ジェラルド・スメタナ編 ; 山内豊明監訳,日経BP社,492.1/H52/2nd,9784822261382
「ベッドサイドの神経の診かた」,改訂18版,田崎義昭,斎藤佳雄著,南山堂,493.72/Ta99/18th,9784525247980

評価方法

成績評価は、討論参加〔50%〕、レポート〔50%〕を合計して算出される。

フィードバック

症例検討を行う際に、その場でフィードバックする。レポート課題については、教員評価を記載して学生に返却する。

その他

専門看護師コース必修
診査技術を実施するため、2名以上の受講を望む。

コンサルテーション論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・井上 さよ子・田崎 あゆみ・木全 美智代・長尾 大地・石川 恵己			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師の6つの役割と機能の中の相談機能を果たすためのコンサルテーションの意義等の基本的概念と具体的方法について学ぶ。

【到達目標】

1. コンサルテーションの基本的概念について説明できる。
2. 臨床現場で起こる様々な問題や課題に対して、直接的あるいは間接的に問題解決を行うためのコンサルテーションの具体的方法を事例に適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス コンサルテーションの変遷とニーズ	村瀬 智子
2	コンサルテーション概論 ：定義・タイプ・介入の方向性・役割	村瀬 智子
3	コンサルテーション過程と倫理的課題 コンサルタントに求められる能力と教育	村瀬 智子
4	コンサルテーションにおけるアセスメント ：医療における組織分析とクライアントの状況	村瀬 智子
5	コンサルティとコンサルタントの関係におけるダイナミクス ：自身の異和感に気づくこととアセスメント	村瀬 智子
6	コンサルテーションの評価とスーパービジョン	村瀬 智子
7	コンサルテーション演習：慢性期看護事例 慢性期看護事例に関するアセスメントとコンサルテーション プロセス	井上・村瀬
8	コンサルテーション演習：がん・終末期看護事例 がん・終末期看護事例に関するアセスメントとコンサルテー ションプロセス	井上・村瀬
9	コンサルテーション演習：急性期看護事例 急性期看護事例に関するアセスメント	長尾・村瀬
10	コンサルテーション演習：急性期看護事例 急性期看護事例に関するコンサルテーションプロセス	長尾・村瀬
11	コンサルテーション演習：小児看護事例 小児看護事例に関するアセスメントとコンサルテーション プロセス	田崎・村瀬
12	コンサルテーション演習：母性看護事例 母性看護事例に関するアセスメント	木全・村瀬
13	コンサルテーション演習：母性看護事例 母性看護事例に関するコンサルテーションプロセス	木全・村瀬
14	コンサルテーション演習：精神科看護事例 精神科看護事例に関するアセスメントとコンサルテーション プロセス	石川・村瀬
15	コンサルテーション演習：リエゾン精神看護事例 リエゾン精神看護事例に関するアセスメントとコンサルテー ションプロセス まとめ	石川・村瀬

授業方法

第1回～第6回：講義・グループ討議

第7回～第15回：講義・演習（ロールプレイを含む）・グループ討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前準備が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「プロセス・コンサルテーション：援助関係を築くこと」, E.H. シャイン著；稲葉元吉, 尾川丈一訳, 白桃書房, 361.4/Sc2, 9784561131403

参考図書

「高度実践看護統合的アプローチ」, Ann B. Hamric 他著；中村美鈴, 江川幸二監訳, へるす出版, N70/H26, 9784892699283
「リエゾン精神看護：患者ケアとナース支援のために」, 野末聖香編著, 医歯薬出版, N20/N98, 9784263234501
「The consulting process in action」, 2nd ed., Gordon Lippitt, Ronald Lippitt, Jpssey-Bass/Pfeiffer, 336/L67/2nd, 088390201X
「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」, 宇佐美しおり, 野末聖香編, 日本看護協会出版会, N20/U92, 9784818014053
「専門看護師の思考と実践」, 専門看護師の臨床推論研究会編, 医学書院, N89/Se71, 9784260024006
「現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー」, 井部俊子, 村上靖彦編集, 医学書院, N89/I11, 9784260038867
適宜、紹介する。

評価方法

出席〔5%〕、討論参加〔50%〕、プレゼンテーション〔30%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議やロールプレイを組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

認定看護管理者コース必修
看護師としての勤務経験を持つ担当教員や臨地で活動する専門看護師が、専門知識や専門職としての思考過程等を本科目で教授する。

看護管理論	1年 前期	1単位 (15時間)	選択
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

質の高い看護サービスを効果的、効率的に提供することを目的とする看護管理に必要な知識を学ぶとともに、高度実践看護師が活動するためのマネジメント上の課題を検討する。

【到達目標】

1. 看護サービス提供における看護管理過程を説明できる。
2. 高度実践看護師の活動における看護管理者との協働・調整を説明できる。
3. 高度実践看護師として活動するためのマネジメント上の課題を探索し考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護管理の歴史、看護管理過程	松浦 正子
2	看護管理に関連する法律・制度	松浦 正子
3	組織と組織文化	松浦 正子
4	仕事意欲と動機付け	南谷 志野
5	看護サービス提供における質保証	南谷 志野
6	看護サービス提供における多職種との協働・調整	南谷 志野
7	高度実践看護師の活動における看護管理者との協働・調整	松浦 正子
8	看護サービス提供と看護管理上の課題:発表・討議	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1回～第7回：講義・討議 第8回：発表・討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

- ・各回のテーマについて予習や発表・討議の準備をする(適宜)
- ・看護管理の今日的課題に関する職能団体の動向や医療制度の動向に注目する(適宜)

教科書

特に指定なし

参考図書

「看護サービスの質管理」（看護管理学習テキスト第2巻），第3版 2020年版，秋山智弥編集，日本看護協会出版会，N70/Ka54/2，9784818021822
「人材管理論」（看護管理学習テキスト第3巻），第3版 2020年版，手島恵編集，日本看護協会出版会，N70/Ka54/3，9784818022539
「組織管理論」（看護管理学習テキスト第4巻），第3版，2020版，勝原裕美子編集，日本看護協会出版会，N70/Ka54/4，9784818022546
「看護サービス管理」，第5版，小池智子・松浦正子・中西睦子編集，医学書院，N70/N39/5th，9784260036610

評価方法

レポート(60%)、発表(30%)、受講態度(10%)を合計して評価する

レポートの課題：第1回～第6回の授業内容の中から、テーマを一つ取り上げ、それについての自施設の現状と課題についてまとめる。形式はA4(40字×40字)1枚程度。提出期限お

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

認定看護管理者コース必修

看護政策論	1年 後期	1単位 (15時間)	選択
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護の質向上に関する制度と政策的な活動を学修し、看護職者が政策決定過程に関わる意義を理解する。さらに現状から看護政策上の課題を探求する。

【到達目標】

1. 看護を取り巻く政策の動向と課題を理解する。
2. 政策決定への過程を理解し、政策提言に向けた方略を考察できる。
3. 看護に関する制度や法律を踏まえ、看護政策の視点から課題を提示できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、基礎知識の確認 (政策とは何か、 政治過程とは何か)、看護職者と政策 (看護職者の政治的発達、 看護職者の社会的責務)	松浦 正子
2	政策決定過程における看護職者の活動 国政と地方政治：国会議員の活動、厚生労働省および地方自治体における看護政策に関する歴史的背景と看護職の活動	松浦 正子
3	政策決定過程における看護職者の活動 関連団体：日本看護協会等の設立と活動の実際	松浦 正子
4	政策決定過程における看護職者の活動 研究成果：政策研究の実際と課題	南谷 志野
5	看護政策に関する教育(看護基礎教育・看護継続教育)	南谷 志野
6	「看護を取り巻く政策」に関する政策決定過程と課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
7	「看護を取り巻く政策」に関する政策決定過程と課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
8	「看護を取り巻く政策」に関する政策決定過程と課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1-5回：講義・討議 第6-8回：プレゼンテーション・討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

- ・第6回 - 8回：「看護を取り巻く政策(保助看法、人材確保法、診療報酬制度など)について、関心のあるテーマをそれぞれ一つ取り上げ、その政策決定過程についてまとめる。
- ・発表資料(様式等は指定しない)は、事前に教員にメールで配信すること。

教科書

特に指定なし

参考図書

- 「看護サービス管理」,第5版,小池智子・松浦正子・中西睦子編,医学書院, N70/N39/5th, 9784260036610
- 「看護職者のための政策過程入門」,第2版,見藤隆子ほか執筆,日本看護協会出版会, N60/Mi62/2nd, 9784818020511
- 「ヘルスケアシステム論：ヘルスケアサービス提供のための制度・政策」(看護管理学習テキスト第1巻),第3版 2020年版,増野園恵編集,日本看護協会出版会, N70/Ka54/1, 9784818022515

評価方法

プレゼンテーション(60%)、受講態度(40%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする。

その他
認定看護管理者コース必修

現任教育論	1年 後期	1単位 (15時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師や看護管理者として期待される教育的機能を果たすための基礎知識を学修し、看護における継続教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 継続教育の意義と目的について理解できる。
2. 継続教育の現状と課題について考察できる。
3. 院内教育プログラムの計画と評価方法について理解できる。
4. 教育的機能を果たすための方略を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護基礎教育と継続教育	山田 聡子
2	学習者の理解（アンドラゴジー、モチベーション、キャリアアップ、リフレクション、熟達）	山田 聡子
3	継続教育の現状と課題 新人看護職員	山田 聡子
4	継続教育の現状と課題 プリセプター・メンター・実地指導者	山田 聡子
5	継続教育の現状と課題 臨地実習指導者	山田 聡子
6	継続教育の現状と課題 高度実践看護師、認定看護師	山田 聡子
7	継続教育の現状と課題 特定行為研修	山田 聡子
8	院内教育プログラムの計画と評価	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2・8回、プレゼンテーション・討議：第3-7回
（すべてZOOMによるオンライン授業とする）

時間外学習

プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
レポート課題の作成に向けた準備を進める（適宜）。
関連事項を学習し討議に備える（適宜）。
初回講義時にプレゼンテーション課題とレポート課題を提示する。

教科書

なし

参考図書

「看護教育学」,第6版,杉森みど里,舟島なをみ著,医学書院, N80/Su38/6th, 9784260027823
「看護教育学:看護を学ぶ自分と向き合う」(看護学テキストnice),改訂第2版,グレッジ美鈴,池西悦子編集,南江堂, N80/G84/2nd, 9784524254934
「ベナー看護実践における専門性:達人になるための思考と行動」,パトリシア ベナー,クリスティン タナー,キャサリン チェスラ著;早野ZITO真佐子訳,医学書院, N01/B35, 9784260020879

評価方法

プレゼンテーション(30%)、討議参加状況(20%)、レポート(50%)

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。レポートにコメントを入れて返却する。

その他

認定看護管理者コース必修

看護管理学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療・看護の最新の動向やエビデンスを踏まえ、看護管理に関連する理論やスキルを理解することで、サービスの質を保証しながら効果的効率的に看護サービスが提供できるような人的、物的、財政的資源や情報を統合して展開するという看護管理のあるべき姿を探求する。

【到達目標】

1. 講義・演習を通して看護管理に関連する理論やスキルを理解し、自らの看護管理上の課題を考察できる。
2. 看護管理に関連する国内外の文献検討を通して、エビデンスに基づいた看護管理システムや看護政策への提言について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、組織行動論（個人と集団・組織の意思決定、組織変革）	松浦 正子
2	組織行動論(個人と集団・組織の意思決定)：演習	松浦 正子
3	組織行動論(個人と集団・組織の意思決定)：演習	南谷 志野
4	組織行動に関する国内文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
5	組織行動に関する海外文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
6	組織分析（SWOT分析、SWOTクロス分析）	南谷 志野
7	組織分析（SWOT分析、SWOTクロス分析）：演習	松浦 正子 南谷 志野
8	組織分析（SWOT分析、SWOTクロス分析）：演習	松浦 正子 南谷 志野
9	医療・看護サービスの質保証と評価	南谷 志野
10	コンフリクト・マネジメント	松浦 正子
11	コンフリクト・マネジメント：演習	松浦 正子
12	医療・看護サービスの質保証と評価：発表・討議	南谷 志野
13	医療・看護サービスの質保証と評価：発表・討議	南谷 志野
14	医療・看護サービスの質評価に関する国内文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
15	医療・看護サービスの質評価に関する海外文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1回、第6回、第9～第10回：講義・討議
 第2回～第3回、第7回～第8回、第11回：演習
 第4回～第5回、第12回～第15回：発表・討議
 （新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

- ・第4回、第5回、第14回、第15回：提示されたテーマに関連する文献を検索し、概要をまとめる。なお、文献は研究論文に限らず、報告書や白書、その他資料でも構わない。
- ・第12回～第13回：「自部署における質改善活動」の実施計画書を立案し、まとめる。

発表資料（様式等は指定しない）は、事前に教員にメールで配信すること。配布資料の印刷・配布は教員が行う。

教科書

特に指定なし

参考図書

「ヘルスケアシステム論」(看護管理学習テキスト第1巻),第3版 2020年版,増野園恵編,日本看護協会出版会,N71/Ka54/1,9784818022515
「看護サービスの質管理」(看護管理学習テキスト第2巻),第3版 2020年版,秋山智弥編,日本看護協会出版会,N70/Ka54/2,9784818022522
「人材管理論」(看護管理学習テキスト第3巻),第3版 2020年版,手島恵編,日本看護協会出版会,N70/Ka54/3,9784818022539
「組織管理論」(看護管理学習テキスト第4巻),第3版 2020年版,勝原裕美子編,日本看護協会出版会,N70/Ka54/4,9784818022546

評価方法

プレゼンテーション(60%) 受講態度(40%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションや演習の場においてフィードバックする。

その他

文献検討のテーマと発表担当等は、第1回講義日に決定する。

人的資源管理論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野・勝原 裕美子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療・看護サービス提供に関わる看護専門職の能力発揮に向けて必要な支援や仕組みに係る法律や制度、諸理論、最新の動向を踏まえ、人的資源をどのように開発し活用すればよいか探求する。

【到達目標】

1. 法律や制度、諸理論、最新の動向を踏まえて人的資源開発・活用や労働管理を説明できる。
2. 自らの人材管理上の課題を考察することで、あるべき人的資源の開発・活用や労働管理について探求し提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、人的資源管理とは	松浦 正子
2	看護専門職の役割と機能、社会的責任と法的根拠	松浦 正子
3	チーム医療におけるタスクシェア、スペシャリストの活用	南谷 志野
4	メンタリング、コーチング	松浦 正子
5	人的資源開発・活用に関する海外文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
6	人的資源開発・活用に関する自施設の課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
7	人的資源開発・活用に関する自施設の課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
8	看護職とモチベーション	勝原 裕美子
9	キャリア開発・継続教育	勝原 裕美子
10	目標管理	勝原 裕美子
11	人材フロー、人事考課	松浦 正子
12	働きやすい職場環境、多様な働き方とWLB	南谷 志野
13	労働管理に関する海外文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
14	労働管理に関する自施設の課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
15	労働管理に関する自施設の課題：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1～4、8～12回：講義・討議

第5～7、13～15回：発表・討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

- ・第5、13回：提示されたテーマに関連する海外文献を検索し、概要をまとめる。
- ・第6～7、14～15回：人的資源開発・活用および労働管理について関心のあるテーマをそれぞれ一つ取り上げ、所属組織の現状と課題についてまとめる。

教科書

特に指定なし

参考図書

「人材管理論 看護管理学習テキスト」, 第3版(2020年版), 手島恵編, 日本看護協会出版会, N70/Ka54/3, 9784818022539

評価方法

プレゼンテーション(60%) 受講態度(40%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする。

その他

文献検討およびプレゼンテーションのテーマと担当は、第1回講義日に提示する。

保健医療福祉組織論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

わが国の保健医療福祉政策の動向を理解するとともに、社会から求められるヘルスケアサービスや看護専門職像を見出し、それに応える組織の構築に関する知識を学ぶ。

【到達目標】

1. 保健医療福祉制度・政策について説明できる。
2. 様々な場における看護政策プロセスの実際を理解し、看護専門職および看護管理者としての役割を考察できる。
3. ヘルスケアサービスに応える組織デザインについて説明できる。
4. 社会が求める看護専門職やメディア・アドボカシーについて考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、組織デザイン（組織とは、理念、組織図、職務規定、職務記述書）	松浦 正子
2	組織デザイン：演習	松浦 正子 南谷 志野
3	わが国における保健医療福祉の現状	松浦 正子
4	保健医療福祉政策と政治活動	松浦 正子 南谷 志野
5	保健医療福祉政策と政治活動	松浦 正子 南谷 志野
6	保健医療福祉政策と政治活動	松浦 正子 南谷 志野
7	保健医療福祉政策と政治活動：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
8	保健医療福祉における専門職能団体の活動	松浦 正子 南谷 志野
9	保健医療福祉における専門職能団体の活動	松浦 正子 南谷 志野
10	保健医療福祉における専門職能団体の活動	松浦 正子 南谷 志野
11	保健医療福祉における専門職能団体の活動：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
12	組織間・地域連携ネットワークデザイン	松浦 正子
13	メディア・アドボカシー	松浦 正子
14	保健医療福祉政策に関する国内文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
15	保健医療福祉政策に関する海外文献の検討：発表・討議	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1回、第3回、第12回、第13回：講義・討議 第2回：演習
 第4回～第6回、第8回～第10回：フィールドワーク
 第7回、第11回、第14回、第15回：発表・討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

第2回：自施設の理念、組織図、職務規定、職務記述書等を事前に準備する。
 第7回、第11回：フィールドワークでの学びをまとめる。
 第14回、第15回：提示されたテーマに関連する国内文献および海外文献を検索し、概要をまとめる。
 文献は研究論文に限らず、報告者、白書、その他の資料でも良い。発表資料(様式等は指定しない)は、事前に教員と受講生全員にメールで配信すること。発表時間は第1回目の授業で提示する。発表用資料はパワーポイントを用いて作成し、事前に教員と受講生全員にメールで配信すること。発表時間は第1回目の授業で提示する。

教科書

特に指定なし

参考図書

「組織管理論」（看護管理学習テキスト第4巻），第3版2020年版，勝原裕美子編，日本看護協会出版会，N70/Ka54/4，9784818022546

「ヘルスケアシステム論：ヘルスサービス提供のための制度・政策」（看護管理学習テキスト第1巻），第3版 2020年版，増野園恵編，日本看護協会出版会，N70/Ka54/1，9784818022515

評価方法

プレゼンテーション(60%) 受講態度(40%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションや演習の場においてフィードバックする。

その他

文献検討およびプレゼンテーションのテーマと担当は、第1回講義日に決定する。

看護管理学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護管理学に関する研究文献の検討を通して看護管理学の研究にかかわる概念や理論への理解を深め、看護実践における看護管理学研究の課題を考察する。明らかにされた看護管理学研究の課題についてフィールドワークを通して明確にするとともに探求方法を考察する。

【到達目標】

1. 看護管理学に関する文献を系統的に検索できる。
2. 文献をクリティークし、要約を記述できる。
3. 看護管理学の課題を探求する研究方法が理解できる。
4. フィールドワークを通して課題の探求方法を理解できる。
5. 課題を探求する研究計画書が理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 看護管理学研究の動向	松浦 正子 南谷 志野
2	文献検索方法	松浦 正子 南谷 志野
3	文献クリティークの方法 : 対象文献の理解	松浦 正子 南谷 志野
4	文献クリティークの方法 : 研究過程との比較	松浦 正子 南谷 志野
5	文献クリティークの方法 : 研究の要素と研究の論理性	松浦 正子 南谷 志野
6	文献クリティークの方法 : 先行研究と研究段階の評価	松浦 正子 南谷 志野
7	文献クリティークの方法 : 倫理的配慮	松浦 正子 南谷 志野
8	文献クリティークの方法 : 文献クリティーク結果の記載	松浦 正子 南谷 志野
9	文献検索: 演習	松浦 正子 南谷 志野
10	文献クリティーク: 演習	松浦 正子 南谷 志野
11	文献クリティーク: 発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
12	文献クリティーク: 発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
13	文献クリティーク: 発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
14	文献クリティーク: 発表・討議	松浦 正子 南谷 志野
15	研究計画の立案	松浦 正子 南谷 志野
16	看護管理学における研究方法 看護師の成長	松浦 正子 南谷 志野
17	看護管理学における研究方法 看護管理実践力	松浦 正子 南谷 志野
18	看護管理学における研究方法 変革	松浦 正子 南谷 志野
19	看護管理学における研究方法 看護管理の評価	松浦 正子 南谷 志野
20	研究課題, 研究目的	松浦 正子 南谷 志野

回数	内容	担当者
21	フィールドワークガイダンス	松浦 正子 南谷 志野
22	フィールドワーク	松浦 正子 南谷 志野
23	フィールドワーク	松浦 正子 南谷 志野
24	フィールドワーク	松浦 正子 南谷 志野
25	フィールドワーク	松浦 正子 南谷 志野
26	フィールドワークのまとめ：演習	松浦 正子 南谷 志野
27	フィールドワークのまとめ・討議	松浦 正子 南谷 志野
28	研究計画の検討 : 研究デザイン	松浦 正子 南谷 志野
29	研究計画の検討 : 概念と概念枠組み	松浦 正子 南谷 志野
30	研究計画の検討 : 研究方法と倫理的配慮	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

第1回、第2回、第15回、第21回：講義 第3回～第14回、第16回～第20回、第26回～第30回：発表・討議 第22回～第25回：フィールドワーク

時間外学習

看護管理に関する関心のテーマについて検索し、関連文献を読む。(適宜)
プレゼンテーションおよび討議への参加の準備を行う。(適宜)

教科書

特に指定なし

参考図書

授業中に適宜提示する。

評価方法

プレゼンテーション (70%)、受講態度(30%)

フィードバック

学生が行う演習やプレゼンテーションの場においてフィードバックする。

その他

研究・教育者コース必修

組織経営・経済論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・米本倉基			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

変化する環境の中で、社会から求められるヘルスケアサービスの提供に向けて、組織の構築とその運営に必要な組織経営の知識を学ぶ。その際、看護の基盤にたつ組織経営として看護の理念を踏まえた運営について考察を深めるとともに、その組織経営者に求められる役割を探求する。

【到達目標】

1. 組織経営の考え方が説明できる。
2. 組織経営における財務管理、経営分析が説明できる。
3. ヘルスサービスにおける経営と質管理・経済性が説明できる。
4. 組織経営における倫理的意思決定が説明できる。
5. 組織経営者の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	医療福祉と経済論	米本 倉基
2	医療福祉経営	米本 倉基
3	財務管理 : 原価の基礎的概念, 経営データ	米本 倉基
4	財務管理 : 財務分析, 病院会計準則, 財務リスク	米本 倉基
5	財務管理 : 財務管理演習	米本 倉基
6	経営分析 : 貸借対照表, 損益計算書	米本 倉基
7	経営分析 : 在庫管理, 設備機械の投資計画, 減価償却	米本 倉基
8	経営分析 : 経営分析演習	米本 倉基
9	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 効率・効果的資源運用	松浦 正子
10	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 看護必要度, 配置と経済性	松浦 正子
11	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : ベンチマークと顧客満足	松浦 正子
12	最新の労使関係法規の動向	松浦 正子
13	組織の危機管理	松浦 正子
14	経営管理者の倫理的意思決定	松浦 正子
15	組織経営・経済に関する自施設の課題: 発表	松浦 正子

授業方法

第1回～第7回: 講義・討議 第8回: 演習 第9回～第13回: 講義・討議 第15回: 発表・討議 (新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施)

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う (適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

「経営資源管理論」(看護管理学習テキスト第5巻), 第3版 2020年版, 金井 Pak 雅子編集, 日本看護協会出版会, N70/Ka54/5, 9784818022553

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行う演習やプレゼンテーションの場においてフィードバックする。

その他

- ・レポートおよびプレゼンレーションのテーマは、第9回講義に提示する。
- ・認定看護管理者コース必修

医療安全論	1年 前期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・飛田 伊都子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療におけるセーフティマネジメントとリスクマネジメントの概念理解は、患者に安全な医療を提供するうえで重要な課題である。医療安全元年と言われる1999年以降の医療事故の動向および対策を理解し、看護管理上必要な組織的安全管理のための環境づくりについて考察する。

【到達目標】

1. 患者安全について説明できる。
2. 医療事故の動向およびその分析方法が説明できる。
3. 医療事故における社会的責任について説明できる。
4. 看護管理の視点から、組織的安全管理に向けた環境づくりについて考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	患者安全とは	飛田 伊都子
2	Safety 1 とSafety 2 の概念	飛田 伊都子
3	医療事故の動向と分析手法	飛田 伊都子
4	医療事故における民事責任・刑事責任・行政責任について	飛田 伊都子
5	医療安全領域の研究の動向	飛田 伊都子
6	医療安全管理者に求められるコンピテンシー	飛田 伊都子
7	医療機関における医療安全の現状と課題	松浦 正子
8	医療機関における医療安全の現状と課題	松浦 正子

授業方法

第1回～第8回：講義，発表・討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う（適宜）

教科書

特に指定なし

参考図書

「人は誰でも間違える：より安全な医療システムを目指して」, L. コーン, J. コリガン, M. ドナルドソン編 ; 米国医療の質委員会/医学研究所著 ; 医学ジャーナリスト協会訳 ; 日本評論社, 498.12/Ko27, 4535981752
「WHO患者安全カリキュラムガイド」, 多職種版, 東京医科大学, 東京医科大学医学教育学分野HP(<http://meded.tokyo-med.ac.jp/>)

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする。

その他

認定看護管理者コース必修

看護管理学実習	2年 通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

法律や制度、諸理論、最新の動向を踏まえ、組織にとってあるべき人的資源管理を展開する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 人的資源管理論に基づく実践的課題について実習できる。
2. 実習施設の組織分析に基づき、望ましいキャリア開発プログラムや人材フローマネジメント、人材活用などを理解し、提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>【実習単位】 6～8月の3か月を実習期間とし、2単位（90時間）のうち最低6日間は実習施設においてフィールドワークを行う。</p> <p>【フィールドワークの場】 受講生と相談の上で、受講生の所属場所以外の医療機関を科目担当者が選定する。（その際、実習担当者名も科目担当者が確認しておく）</p> <p>【実習内容・方法】 人的資源管理論での既習内容を踏まえ、受講生が実習課題を明確にする。 受講生が、自らの実習課題をもとに実習施設の指導担当者と実習方法（シャドーイング、参与観察、インタビュー、質問紙調査、関係資料閲覧など）や実習日時について交渉する。 なお、決定した実習計画および日程表は、科目担当者および実習担当者へ速やかに提出することとする。 実習日誌は毎日記載し、実習終了日に科目担当者へ提出する。</p> <p>。実習での学びから自らの人的資源管理上の課題を明確にし、実習施設にとって望ましい人的資源管理を提言する。 なお、実習施設における実習成果発表会は担当教員も参加する。</p>	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

臨地実習（実習施設における最低6日間のフィールドワーク、学内実習、実習施設における実習成果発表会）

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習課題および実習計画を立案する。

教科書

特に指定なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

記録物：実習計画および日程表、実習日誌（20%） 成果発表、レポート（40%）
実習態度（40%）

【提出物】

実習計画および日程表：自由形式とし、実習担当者との交渉が終了次第、科目担当者および実習担当者へ速やかに提出する。

実習日誌：A4サイズで自由形式とし、実習日（帰校日も含む）は毎日記載する。実習最終日に科目担当者のメールアドレスへ提出する。

レポート：課題は「実習を通して学んだ人的資源管理のあり方と、今後の看護管理者としての自分の課題」とする。形式はA4（40字×40行）2～3枚程度、表紙不要、右上に提出年月日、学生記番号、氏名を記載することとする。提出期限および提出先は、実習日程の調整が終了次第提示する。

なお、実習課題やレポート内容は以下の点で評価する。

- ・看護を取り巻く社会の動向等に着目し看護管理者としての広い視点で述べられている
- ・他部門との協働、調整を含み、組織全体を視野に入れている
- ・課題の背景や根拠が明確に述べられている
- ・客観的な現状分析に基づくものである
- ・必要な理論等に基づいて述べられている
- ・今後の課題や展望が述べられている

フィードバック

実習施設における発表時にフィードバックを行う。

その他

認定看護管理者コース必修

本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護管理学実習	2年 通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

法律や制度、諸理論、最新の動向を踏まえ、組織にとってあるべき安全管理を展開する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 医療安全論に基づく実践的課題について実習できる。
2. 組織分析に基づき、実習施設において望ましい医療安全管理に係る組織や医療安全管理者の活動、事故報告制度・事故分析・事故防止対策、安全教育の実際などを理解し、提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>【実習単位】 10～12月の3か月を実習期間とし、2単位（90時間）のうち最低6日間は実習施設においてフィールドワークを行う。</p> <p>【フィールドワークの場】 受講生と相談の上で、受講生の所属場所以外の医療機関を科目担当者が選定する。（その際、実習担当者名も科目担当者が確認しておく）</p> <p>【実習内容・方法】 医療安全論での既習内容を踏まえ、受講生が実習課題を明確にする。 受講生が、自らの実習課題をもとに実習施設の指導担当者と実習方法（シャドーイング、参与観察、インタビュー、質問紙調査、関係資料閲覧など）や実習日時について交渉する。なお、決定した実習計画および日程表は、科目担当者へ速やかに提出することとする。 実習日誌は毎日記載し、実習終了日に科目担当者へ提出する。</p> <p>。実習での学びから自らの安全管理上の課題を明確にし、実習施設にとって望ましい安全管理を提言する。 なお、実習施設における実習成果発表会は担当教員も参加する。</p>	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

臨地実習（実習施設における最低6日間のフィールドワーク、学内実習、実習施設における実習成果発表会）

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習課題および実習計画を立案する。

教科書

特に指定なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

記録物：実習計画および日程表、実習日誌（20%） 成果発表、レポート（40%）
実習態度（40%）

【提出物】

実習計画および日程表：自由形式とし、実習担当者との交渉が終了次第、科目担当者および実習担当者へ速やかに提出する。

実習日誌：A4サイズで自由形式とし、実習日（帰校日も含む）は毎日記載する。実習最終日に科目担当者のメールアドレスへ提出する。

レポート：課題は「実習を通して学んだ安全管理のあり方と、今後の看護管理者としての自分の課題」とする。形式はA4（40字×40行）2～3枚程度、表紙不要、右上に提出年月日、学生記番号、氏名を記載することとする。提出期限および提出先は、実習日程の調整が終了次第提示する。

なお、実習課題やレポート内容は以下の点で評価する。

- ・看護を取り巻く社会の動向等に着目し看護管理者としての広い視点で述べられている
- ・他部門との協働、調整を含み、組織全体を視野に入れている
- ・課題の背景や根拠が明確に述べられている
- ・客観的な現状分析に基づくものである
- ・必要な理論等に基づいて述べられている
- ・今後の課題や展望が述べられている

フィードバック

実習施設における発表時にフィードバックを行う。

その他

認定看護管理者コース必修

本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護管理学実習	2年 通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

法律や制度、諸理論、最新の動向を踏まえ、組織にとってあるべき財務管理を展開する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 組織経営・経済論に基づく実践的課題について実習できる。
2. 組織分析に基づき、実習施設において望ましい病床管理や人件費・材料費等の管理、物品管理などを理解し、提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>【実習単位】 6～8月の3か月を実習期間とし、2単位（90時間）のうち最低6日間は実習施設においてフィールドワークを行う。</p> <p>【フィールドワークの場】 受講生と相談の上で、受講生の所属場所以外の医療機関を科目担当者が選定する。（その際、実習担当者名も科目担当者が確認しておく）</p> <p>【実習内容・方法】 組織経営・経済論での既習内容を踏まえ、受講生が実習課題を明確にする。 受講生が、自らの実習課題をもとに実習施設の指導担当者と実習方法（シャドーイング、参与観察、インタビュー、質問紙調査、関係資料閲覧など）や実習日時について交渉する。なお、決定した実習計画および日程表は、科目担当者へ速やかに提出することとする。 実習日誌は毎日記載し、実習終了日に科目担当者へ提出する。</p> <p>。実習での学びから自らの財務管理上の課題を明確にし、実習施設にとって望ましい人的資源管理を提言する。 なお、実習施設における実習成果発表会は担当教員も参加する。</p>	松浦 正子 南谷 志野

授業方法

臨地実習（実習施設における最低6日間のフィールドワーク、学内実習、実習施設における実習成果発表会）

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習課題および実習計画を立案する。

教科書

特に指定なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

記録物：実習計画および日程表、実習日誌（20%） 成果発表、レポート（40%）
実習態度（40%）

【提出物】

実習計画および日程表：自由形式とし、実習担当者との交渉が終了次第、科目担当者および実習担当者へ速やかに提出する。

実習日誌：A4サイズで自由形式とし、実習日（帰校日も含む）は毎日記載する。実習最終日に科目担当者のメールアドレスへ提出する。

レポート：課題は「実習を通して学んだ財務管理のあり方と、今後の看護管理者としての自分の課題」とする。形式はA4（40字×40行）2～3枚程度、表紙不要、右上に提出年月日、学生記番号、氏名を記載することとする。提出期限および提出先は、実習日程の調整が終了次第提示する。

なお、実習課題やレポート内容は以下の点で評価する。

- ・看護を取り巻く社会の動向等に着目し看護管理者としての広い視点で述べられている
- ・他部門との協働、調整を含み、組織全体を視野に入れている
- ・課題の背景や根拠が明確に述べられている
- ・客観的な現状分析に基づくものである
- ・必要な理論等に基づいて述べられている
- ・今後の課題や展望が述べられている

フィードバック

実習施設における発表時にフィードバックを行う。

その他

認定看護管理者コース必修

本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護教育学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育に関する基礎知識を学修し、看護基礎教育と継続教育ならびに看護教員・指導者養成の現状と課題を考察することで看護教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護教育に関連する法律・制度について理解できる。
3. 看護基礎教育と継続教育の現状と課題について考察できる。
4. 看護教育における教員・指導者養成の課題について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護教育とその目的	山田 聡子
2	看護教育の歴史的変遷	山田 聡子
3	看護教育関連法規 憲法・教育基本法・学校教育法	山田 聡子
4	看護教育関連法規 大学設置基準・専修学校設置基準	山田 聡子
5	看護教育関連法規 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	山田 聡子
6	看護基礎教育の現状	山田 聡子
7	看護基礎教育の課題	山田 聡子
8	継続教育の現状	山田 聡子
9	継続教育の課題	山田 聡子
10	看護教員の養成と課題	山田 聡子
11	臨地実習指導者の養成と課題	山田 聡子
12	新人看護職員実地指導者の養成と課題	山田 聡子
13	諸外国の看護教育の現状	山田 聡子
14	看護教育の展望	山田 聡子
15	まとめ	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2回、プレゼンテーション・討議：第3-15回

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
各回の討議に備えて関連事項を自己学習する（適宜）。

教科書

なし

参考図書

適宜、紹介する

評価方法

課題レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議参加状況（20%）

フィードバック

討議・発表時にその場でフィードバックする。課題レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

看護技術学特論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 中島 佳緒里			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護技術に関する基礎知識を修得し、看護技術における現状と課題について考察する。

【到達目標】

1. 看護技術の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護技術における倫理性ならびに倫理的問題について理解できる。
3. 看護技術における科学的原理と法則性について考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護技術に関する主要概念 (技術学)	中島 佳緒里
2	看護技術の歴史的変遷	中島 佳緒里
3	ヒューマンサイエンスとしての看護技術	中島 佳緒里
4	ヒューマンサイエンスとしての看護技術	中島 佳緒里
5	看護技術に影響を及ぼす諸要因	中島 佳緒里
6	看護技術における倫理的問題	中島 佳緒里
7	看護技術における科学的原理と法則性	中島 佳緒里
8	看護技術の原理と法則性 : 生活援助技術	中島 佳緒里
9	看護技術の原理と法則性 : 生活援助技術	中島 佳緒里
10	看護技術の原理と法則性 : 生活援助技術	中島 佳緒里
11	看護技術の原理と法則性 : 安寧を提供する技術	中島 佳緒里
12	看護技術の原理と法則性 : 安寧を提供する技術	中島 佳緒里
13	看護技術の原理と法則性 : 診療に伴う援助技術	中島 佳緒里
14	看護技術の開発	中島 佳緒里
15	開発した看護技術の臨床適用	中島 佳緒里

授業方法

講義：第1回、プレゼンテーション・討議：第2-15回

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。
適宜、プレゼンテーションと討議の準備を行う。

教科書

なし

参考図書

「看護技術の基礎理論」, 川島みどり著, ライフサポート社
N10.1/Ka97, 9784904084199
「ケア技術のエビデンス：実践へのフィードバックで活かす1」, 深井喜代子監修, へる
す出版, N10.1/F71, 9784892695605
「ケア技術のエビデンス：実践へのフィードバックで活かす2」, 深井喜代子監修, へる
す出版, N10.1/F71/2, 9784892697135
「ケア技術のエビデンス：実践へのフィードバックで活かす3」, 深井喜代子監修, へる
す出版, N10.1/F71/3, 9784892698545

評価方法

プレゼンテーション (60%)、討議参加度 (40%)

フィードバック

討議・発表時にその場でフィードバックする

その他

なし

看護教育方法論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 山田 聡子・中島 佳緒里			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育課程および教育展開方法の基礎知識を学修し、看護教育の方法を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育課程の編成と展開の基盤となる主要概念と理論について理解できる。
2. 看護教育課程および編成方法について理解できる。
3. 看護教育の方法と評価について理解し考察できる。
4. 授業設計と展開方法について理解し実践できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護教育課程とは 主要概念・理論 レディネス、モチベーション、アンドラゴジ ー、職業的アイデンティティ	山田 聡子
2	主要概念・理論 ロジカルシンキング、クリティカルシン キング、リフレクション	山田 聡子
3	看護基礎教育課程と編成方法 授業設計と展開方法 指導観・学生観・教材観	山田 聡子
4	授業設計と展開方法 授業計画の立案(その1)	山田 聡子
5	授業設計と展開方法 授業計画の立案(その2)	山田 聡子
6	看護教育の方法と評価: 基礎知識	山田 聡子
7	看護教育の方法と評価: アセスメント力	山田 聡子
8	看護教育の方法と評価: 看護観、倫理観	山田 聡子
9	看護教育の方法と評価: 対人関係スキル	中島 佳緒里
10	看護教育の方法と評価: 生活援助技術	中島 佳緒里
11	看護教育の方法と評価: 診療の補助技術	山田 聡子
12	臨地実習における教育方法と評価	山田 聡子
13	授業設計と展開方法 授業計画の実施(その1)	山田・中島
14	授業設計と展開方法 授業計画の実施(その2)	山田・中島
15	授業設計と展開方法 授業計画の評価	山田・中島

授業方法

第1-3・6回: 講義、第4・5回: 講義・ワーク、第7-12・15回: プレゼンテーション・討議、
第13・14回: 演習指導の実施
なお、第13・14回の演習指導の実施に伴う準備により、授業計画が変更する可能性がある。
。詳細は、第1回講義時に説明する。

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーションの準備を進める
(適宜)。
授業実施に向けて準備を進める(適宜)。

教科書

なし

参考図書

「看護教育における授業設計」, 第4版, 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子著, 医学書
院, N85/Sa85/4th, 9784260008402
「看護教育学」, 第6版, 杉森みどり, 舟島なをみ著, 医学書院
, N80/Su38/6th, 9784260027823
「看護教育学: 看護を学ぶ自分と向き合う」(看護学テキストnice), 改訂第2版, グレ
ッグ美鈴, 池西悦子編集, 南江堂, N80/G84/2nd, 9784524254934

評価方法

プレゼンテーション(30%)、授業計画・実施(40%)、授業計画の評価レポート(30%)

フィードバック

プレゼンテーションや授業実施後にその場でフィードバックする。授業計画の評価レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

看護教育・技術学演習	1年 後期	2単位（60時間）	選択必修
担当：山田 聡子・中島 佳緒里			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育および看護技術に関する研究方法を考察し、研究計画の立案・実施に向けた基礎力を修得する。

【到達目標】

1. 看護教育および看護技術に関する研究方法を理解できる。
2. フィールドワークから研究方法を具体化する。
3. 研究計画の立案方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、研究計画立案方法	山田 聡子
2	看護教育に関する研究方法 認識・経験・行動の概念化	山田 聡子
3	看護教育に関する研究方法 認識・経験・行動の概念化	山田 聡子
4	看護教育に関する研究方法 実践能力の測定	山田 聡子
5	看護教育に関する研究方法 実践能力の測定	山田 聡子
6	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価1（講義・演習）	山田 聡子
7	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価1（講義・演習）	山田 聡子
8	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価2（実習）	山田 聡子
9	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価2（実習）	山田 聡子
10	看護技術に関する研究方法 看護技術の効果測定	中島 佳緒里
11	看護技術に関する研究方法 看護技術の効果測定	中島 佳緒里
12	看護技術に関する研究方法 看護技術の開発	中島 佳緒里
13	看護技術に関する研究方法 看護技術の開発	中島 佳緒里
14	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
15	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
16	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
17	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
18	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
19	フィールドワーク	山田・中島
20	フィールドワーク	山田・中島
21	フィールドワーク	山田・中島
22	フィールドワーク	山田・中島
23	フィールドワーク	山田・中島
24	フィールドワーク	山田・中島
25	研究計画の検討 研究デザイン	山田・中島
26	研究計画の検討 研究デザイン	山田・中島
27	研究計画の検討 主要概念または概念枠組み	山田・中島
28	研究計画の検討 主要概念または概念枠組み	山田・中島
29	研究計画の検討 研究方法	山田・中島
30	研究計画の検討 研究方法	山田・中島

授業方法

第1回は講義を行う。第2-13回は事前に配布する文献を用いた討議を行う。第14-18・25-30回はプレゼンテーション・討議を行う。第19-24回は各自の研究課題に沿って研究計画の立案に要するフィールドワークを行う。フィールドワークの開始までにフィールドワークの計画を立案し、必要な調整を行うこと。

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーション準備と討議準備を行う（適宜）。
授業内容に基づき研究計画の立案を進める（適宜）。
フィールドワークの準備を進める（適宜）。

教科書

なし

参考図書

適宜紹介する

評価方法

プレゼンテーション（35%）、討議参加度（30%）、フィールドワーク状況（35%）

フィードバック

発表・討議時にその場でフィードバックする

その他

なし

成人看護学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人患者並びに家族の看護を理解するために、手術の状況や関連する理論を掘り下げて、看護実践及看護研究への活用について探求する。具体的にはストレス・コーピング理論、危機モデル、ソーシャルサポート、QOLの概念と評価方法、感染予防の役割と看護などを学び、看護の質向上のための理論の活用について学ぶ。

【到達目標】

1. 成人看護に関連する理論を看護実践への活用の視点で説明できる。
2. 成人看護に関連する理論を看護研究への活用の視点で説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	成人看護特論のオリエンテーション、サブストラクション	東野 督子
2	成人看護学に関連したサブストラクションの演習	東野 督子
3	成人看護学に関連した理論：ストレス・コーピング理論	東野 督子
4	ストレス・コーピングに関連した文献を用いた演習	東野 督子
5	急性期の状態にある患者と家族を理解するための概念：危機モデル、ポディーイメージ	東野 督子
6	危機モデル、ポディーイメージに関連した文献を用いた演習	東野 督子
7	手術侵襲と生体反応，術後の急性疼痛と看護	東野 督子
8	手術侵襲と生体反応，術後の急性疼痛と看護に関連した文献を用いた演習	東野 督子
9	急性期の状態にある患者と家族を理解するための概念：ソーシャル・サポート	東野 督子
10	ソーシャル・サポートに関連した文献を用いた演習	東野 督子
11	QOL と看護	東野 督子
12	QOL と看護に関連した文献を用いた演習	東野 督子
13	医療の動向と感染予防における看護の役割	東野 督子
14	医療の動向と感染予防に関連した文献を用いた演習	東野 督子
15	まとめ	東野 督子

授業方法

講義：第1,3,5,7,9,11,13,15回
演習：第2,4,6,8,10,12,14回

時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業に参加して下さい。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

周術期ケア開発特論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周術期とは、手術を受ける患者の入院から退院までの期間を指す。周術期にある患者が健康危機状況にあるときから回復期までの、回復過程をたどる患者・家族の特徴とQOLの向上を目指した援助について、諸理論を活用しながら探求する。

【到達目標】

1. 疾病により変化した身体の機能の回復に向けての援助を検討する。
2. 周術期患者・家族への看護実践に関する事例等の文献を活用し、援助方法を探究する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	東野 督子
2	手術侵襲に関する講義	東野 督子
3	呼吸器障害に対する援助	東野 督子
4	呼吸器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
5	循環器障害に対する援助	東野 督子
6	循環器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
7	消化器障害に対する援助	東野 督子
8	消化器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
9	脳神経障害に対する援助	東野 督子
10	脳神経障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
11	術後合併症予防に対する援助	東野 督子
12	術後合併症予防に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
13	急性期患者の家族に対する援助	東野 督子
14	急性期患者の家族に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
15	まとめ	東野 督子

授業方法

講義：第1・2・3・5・7・9・11・13回

演習：第4・6・8・10・12・14・15回

時間外学習

予習・復習を十分な時間を使って授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

慢性病ケア開発特論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 石黒 千映子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論についての理解を深めるとともに、研究および実践の現状分析から慢性病看護の課題について検討する。さらに、慢性病・障害を持つ患者とその家族への、変化する健康の各段階に応じた看護ケアの方法について探求する。

【到達目標】

1. 慢性病・障害をもつ患者・家族の理解や看護に活用できる概念や理論について説明できる。
2. 慢性病・障害をもつ患者・家族への看護実践と課題について、先行研究を活用しながら説明できる。
3. 慢性病をもつ患者・家族への、変化する健康の各段階に応じた看護について、概念や理論、先行研究を活用しながら説明できる。
4. 先行研究および自身の体験事例を活用し、慢性病をもつ患者・家族への看護ケアの方法について理論的に探究する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション 慢性病とは、 慢性病をもつ患者・家族が直面する心理社会的問題	石黒 千映子
2	慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論 ：病みの軌跡	石黒 千映子
3	慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論 ：不確かさ	石黒 千映子
4	慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論 ：セルフエフィカシー、トランスセオリアルモデル	石黒 千映子
5	慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論 ：エンパワメント	石黒 千映子
6	慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論 ：喪失、悲嘆	石黒 千映子
7	急性増悪期にある患者・家族への看護ケア（総論）	石黒 千映子
8	急性増悪期にある患者・家族への看護ケア（各論）	石黒 千映子
9	がんの化学療法、放射線治療を受ける患者・家族への看護ケア（総論）	石黒 千映子
10	がんの化学療法、放射線治療を受ける患者・家族への看護ケア（各論）	石黒 千映子
11	回復期・維持期にある患者・家族への看護ケア（総論）	石黒 千映子
12	回復期・維持期にある患者・家族への看護ケア（各論）	石黒 千映子
13	終末期にある患者・家族への看護ケア（総論）	石黒 千映子
14	終末期にある患者・家族への看護ケア（各論）	石黒 千映子
15	まとめ 慢性病をもつ患者・家族への看護ケアの方法について	石黒 千映子

授業方法

講義：第1・7・9・11・13回

演習（発表・討論）：第8・10・12・14・15回

講義・演習（発表・討論）：第2・3・4・5・6回

時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業に臨む。プレゼンテーションの準備をする。（2時間）

教科書

とくに指定しない

参考図書

「中範囲理論入門：事例を通してやさしく学ぶ」,第2版,佐藤栄子編著,日総研出版
N01/Sa85/2nd, 9784776014140
その他適宜紹介する

評価方法

レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、討論への参加状況を含む授業態度(30%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

成人看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人看護学分野で、学生が興味を持つ特定の重要な現象、援助技術、理論およびその活用方法について、集中的な文献検討を行なう。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、成人看護学における特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行うことで、自己の研究課題と研究デザインを明確にする。

【到達目標】

1. 自己の課題の文献のレビューができる。
2. 自己の課題と関連した演繹的データの収集方法とまとめ方がわかる。
3. 自己の課題と関連した帰納的データの収集方法とまとめ方がわかる。
4. 課題に適合した倫理的に配慮された研究方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	文献検討の進め方	東野 督子
2	文献レビューについて	東野 督子
3	自己の研究課題の検討：文献レビュー	東野 督子
4	自己の研究課題の検討：文献レビュー	東野 督子
5	自己の研究課題の検討：文献レビュー	東野 督子
6	自己の研究課題の検討：文献レビュー	東野 督子
7	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
8	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
9	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
10	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
11	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
12	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：演繹的研究	東野 督子
13	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
14	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
15	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
16	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
17	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
18	研究課題に必要な評価方法および測定方法の検討：帰納的研究	東野 督子
19	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
20	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
21	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
22	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
23	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
24	研究方法に応じた倫理的配慮	東野 督子
25	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子
26	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子
27	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子
28	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子
29	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子
30	研究課題を統合したプレゼンテーションと討議	東野 督子

授業方法

講義：第1～2回
演習：第3～30回

時間外学習

予習・復習に十分時間をつかって授業に臨んで下さい。

教科書
適宜紹介する。

参考図書
適宜紹介する。

評価方法
文献レビュー（50％）、計画書作成（30％）、プレゼンテーション（20％）を合算して算出する。

フィードバック
学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他
なし

母性看護学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期および女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題に関する研究の動向を理解し、研究疑問（リサーチクエッション）を構造化し、文献検索を行う。さらに、得られた文献を批判的に検討する。

【到達目標】

1. 周産期および女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題に関する研究の動向を理解できる。
2. 研究疑問（リサーチクエッション）を構造化できる。
3. 文献検索により得られた文献を批判的に検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	テーマの決定PECOあるいはPICO作成	野口・長田
3	妊娠・分娩期のケアに関する文献検索	野口 眞弓
4	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
5	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
6	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
7	産褥期のケアに関する文献検索	長田 知恵子
8	文献のクリティーク 選択した文献	長田 知恵子
9	文献のクリティーク 選択した文献	長田 知恵子
10	文献のクリティーク 選択した文献	長田 知恵子
11	女性のライフサイクル全般に関する文献検索	野口 眞弓
12	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
13	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
14	文献のクリティーク 選択した文献	野口 眞弓
15	まとめ	野口・長田

授業方法

第1～2回、4～6回、8～10回、12～15回 講義、第3・7・11回 演習
 新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読む。（2時間）
 講義時間外にも文献検索を行い、講義で用いる文献を選択する。（2時間）

教科書

なし

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

文献クリティークの発表[90%]、討議への参加[10%]を合計して評価する。

フィードバック

講義中の文献クリティーク時にフィードバックを行う。

その他

なし

ウィメンズヘルステ論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題について理解し、その課題を解決するための基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. 月経前緊張症、性感染症、性に関する健康教育、経口避妊薬、更年期障害など思春期から更年期に多くみられる健康問題について説明できる。
2. 不妊症・不育症、出生前診断、遺伝相談、ペリネイタルロスでの援助について説明できる。
3. セクシャルマイノリティおよび性暴力について説明できる。
4. 災害時における妊産褥婦への支援および母性看護学領域における倫理について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	月経前緊張症	野口 眞弓
3	性感染症	野口 眞弓
4	性に関する健康教育	野口 眞弓
5	経口避妊薬	野口 眞弓
6	更年期女性における健康問題	長田 知恵子
7	不妊症・不育症 検査・治療とその看護	野口 眞弓
8	不妊症・不育症 生殖医療を必要とする対象への援助	野口 眞弓
9	出生前診断と遺伝相談	長田 知恵子
10	ペリネイタルロスとグリーフケア	長田 知恵子
11	セクシャルマイノリティ	野口 眞弓
12	性暴力	野口 眞弓
13	性暴力救援センターでの実際	野口 眞弓
14	災害時における妊産褥婦への支援	長田 知恵子
15	母性看護学領域における倫理	長田 知恵子

授業方法

第1回 講義、第2～6回 講義・発表・討議、第7回 講義、第8～12回 講義・発表・討議、第13回 講義、第14～15回 講義・発表・討議
 新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。(2時間)また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(1時間)

教科書

なし

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

周産期ケア開発特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における健康や健康課題について理解し、その課題を解決するためのケア開発に必要な基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. ソーシャル・キャピタルや実母からのサポートを学び、妊娠期うつや産褥期うつと妊娠・出産・育児環境について関連を述べるができる。
2. マタニティ・ヨガ、アロマセラピーなどの母性看護学領域における代替療法について説明できる。
3. 出産時のケアのあり方について説明することができる。
4. 妊娠・出産に関するエビデンスを説明できる。
5. 産褥期の母子への母乳育児支援の現状と支援を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	ソーシャル・キャピタル	野口 眞弓
3	妊娠期うつ・産褥期うつ	野口 眞弓
4	妊娠・産褥期のサポート	野口 眞弓
5	マタニティ・ヨガ 妊娠期におけるヨガの効果	野口 眞弓
6	マタニティ・ヨガ 産褥期におけるヨガの効果	野口 眞弓
7	妊娠中のセルフケア 妊娠期の口腔ケア	野口 眞弓
8	妊娠中のセルフケア アロマセラピー、鍼灸	長田 知恵子
9	妊娠中のセルフケア 運動、会陰マッサージ	長田 知恵子
10	妊娠中のマイナートラブル 冷え性	長田 知恵子
11	妊娠に関するコクラン・レビュー	野口 眞弓
12	分娩時の身体感覚	野口 眞弓
13	出産に関するコクラン・レビュー	野口 眞弓
14	母乳育児支援	長田 知恵子
15	母乳育児支援	長田 知恵子

授業方法

第1回 講義、第2～3回 講義・発表・討議、第4回 講義、第5～11回 講義・発表・討議、第12回 講義、第13～15回 講義・発表・討議
 新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする(2時間)。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める(1時間)。

教科書

なし

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

母性看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

母性看護学での看護の専門性を高めるために、学生が関心をもつ領域での参加観察、インタビューなどを通じ、対象理解を深め、学生が関心をもつ領域の現象の分析を行う。

【到達目標】

1. 学生が関心をもつ領域で参加観察あるいはインタビューを行うことができる。
2. 参加観察あるいはインタビューで収集した情報を分析することができる。
3. 学生が関心をもつ領域の現象を記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	関心領域の決定	野口・長田
3	関心領域の決定	野口・長田
4	関心領域の決定	野口・長田
5	フィールドの決定	野口・長田
6	フィールドの決定	野口・長田
7	フィールドの決定	野口・長田
8	フィールドの決定	野口・長田
9	フィールドと打合せ	野口・長田
10	フィールドと打合せ	野口・長田
11	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
12	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
13	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
14	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
15	データ分析の確認	野口・長田
16	データ分析の確認	野口・長田
17	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
18	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
19	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
20	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
21	データ分析の中間報告	野口・長田
22	データ分析の中間報告	野口・長田
23	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
24	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
25	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
26	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
27	データ分析	野口・長田
28	データ分析	野口・長田
29	データ分析	野口・長田
30	発表、討議	野口・長田

授業方法

第1回 講義、第2～8回 演習、第9～14回 フィールドでの演習、第15～16回 データ分析の確認、第17～20回 フィールドでの演習、第21～22回 中間報告、第23～26回 フィールドでの演習、第27～29回 演習、第30回 発表、討議
新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする(2時間)。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める(1時間)。

教科書

なし

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

小児看護学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児の成長発達に影響する環境との相互作用を踏まえた上で、現代の乳児期・幼児期・学童期思春期における小児と家族の健康に関する問題状況を把握し、小児と家族の健康状態を判断できる専門的知識を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの療養環境や看護の現状から、小児看護における課題と支援方法を理解できる。
2. 子どもと家族に対する倫理的配慮の必要性とそのための方法について理解できる。
3. 様々な状況にある子どもと家族に応じた看護の特徴を理解できる。
4. 子どもと家族への援助を導き出すための基本的な理論として、オレムの理論の内容と活用方法がわかる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション 子どもの療養環境と看護の現状（日本および外国）	大西・岡田
2	子どもと家族の倫理：子どもの権利条約、子どものインフォームド・コンセント/アセント、プレパレーション	岡田 摩理
3	小児看護におけるきょうだい支援	岡田 摩理
4	キャリアオーバーの問題と成人移行期支援	大西 文子
5	発達障害の子どもを取り巻く問題と支援	岡田 摩理
6	小児救急医療と看護（小児救急医療の現状と課題、家庭看護の現状、小児救急看護のあり方）	大西 文子
7	子どもの在宅医療・看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴・課題を踏まえた支援	岡田 摩理
8	子どもの災害看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴・課題を踏まえた支援	大西 文子
9	保育所・特別支援学校における看護師の役割	大西 文子
10	地域に暮らす子どもの身体的・精神的・社会的問題と支援（子どもの生活習慣の支援を含む）	大西 文子
11	オレムのセルフケア不足理論	大西 文子
12	オレムのセルフケア不足理論	大西 文子
13	オレムの依存的ケア理論	大西 文子
14	オレムの依存的ケア理論	大西 文子
15	まとめ	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

「オレム看護論入門：セルフケア不足看護理論へのアプローチ」, コニー・M・デニス著；小野寺杜紀監訳, 医学書院, N01/071, 9784260343886

参考図書

必要時紹介する。
開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加（50%）、レポート（50%）を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学成長発達論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における小児や家族を対象として捉えるために、小児の各期における成長発達及び諸々の発達理論を修得する。

【到達目標】

1. 小児の各期における詳細な成長発達過程について、諸々の発達理論を通して理解できる。
2. 家族の視点から小児の成長発達を理解するために、親子関係論や家族に関する理論を理解できる。
3. 子ども自身の健康維持増進を支援するために、子どものセルフケアを支援する理論を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 発達理論の概要 (講義)	大西・岡田
2	子どもの成長発達 (胎生期・新生児期)	岡田 摩理
3	子どもの成長発達 (乳児期・幼児前期)	岡田 摩理
4	子どもの成長発達 (幼児後期)	岡田 摩理
5	子どもの成長発達 (学童期・思春期)	岡田 摩理
6	発達理論(1) : フロイト	大西 文子
7	発達理論(2) : エリクソン自我発達理論	大西 文子
8	発達理論(3) : ピアジェ発達理論	大西 文子
9	子どもと家族の発達理論(1) : マーラーの分離-固体化理論	大西 文子
10	子どもと家族の発達理論(2) : ボウルビーのアタッチメント理論	大西 文子
11	子どもと家族の発達理論(3) : 家族発達理論	岡田 摩理
12	子どもと家族の発達理論(4) : 家族アセスメントモデル	岡田 摩理
13	子どもと家族の発達理論(5) : 子どものストレスコーピング理論、 家族ストレス対処理	岡田 摩理
14	子どものセルフケアの概念と子どものセルフケア理論	岡田 摩理
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

「生涯人間発達学」, 改訂第2版増補版, 上田礼子著, 三輪書店
143/U32/2nd, 9784895903998

「オレム看護論 : 看護実践における基本概念」, 第4版, ドロセア E. オレム著 ; 小野寺杜紀訳, 医学書院, N01/071/4th, 9784260000604

参考図書

必要時、参考図書・資料を紹介する。

評価方法

討議への参加 (50%)、レポート (50%) を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学評価方法論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

子どもと家族の発達および生活の質の向上を支援するために、包括的に査定するための方略や技術・技法を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの発達状態の評価方法を理解し、発達スクリーニングを行うことができる。
2. 子どものQOL及び家族機能を評価し、それらを高める看護について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/子どもの発達評価	大西・岡田
2	子どもの発達と評価：(1) デンバー 発達判定法	大西 文子
3	子どもの発達と評価：(2) 津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法	大西 文子
4	子どもの発達と評価：(3) 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法	大西 文子
5	子どもと家族の発達と評価：(4) 新版K式発達検査法	大西 文子
6	子どもの痛みとQOL	岡田 摩理
7	子どものQOL測定方法、QOL測定上の問題点	岡田 摩理
8	子どものQOLと成人のQOLとの違い	岡田 摩理
9	子どもと家族の発達評価	岡田 摩理
10	子どもと家族のQOLの評価とQOLを高める看護	岡田 摩理
11	家族機能の評価	岡田 摩理
12	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	岡田・大西
13	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	岡田・大西
14	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	岡田・大西
15	まとめ ・ 授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

開講時参考文献リストや、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加(50%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護学の研究の動向の理解を深めるために、学生が関心をもつ分野における国内のフィールドワークおよび英語文献をとおして、学生が関心をもつ分野の研究における現状分析と課題を見出すことができる。

【到達目標】

1. 学生が関心をもつ分野を決定できる。
2. フィールドワークのための方法論とその技術を習得できる。
3. 学生が関心をもつ分野における適切なフィールドワーク方法を理解できる。
4. 国内のフィールドワークで得た研究に関する情報について、分析できる。
5. 学生が関心をもつ分野の英語文献を購読できる。
6. 学生が関心をもつ分野の研究における現状分析と課題を発表・記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 関心分野について	大西・岡田
2	フィールドと活動方法	大西・岡田
3	フィールドと活動方法	大西・岡田
4	参加観察方法とその実際	大西・岡田
5	参加観察方法とその実際	大西・岡田
6	インタビュー方法とその実際	大西・岡田
7	インタビュー方法とその実際	大西・岡田
8	フィールドワークの決定	大西・岡田
9	フィールドワークの決定	大西・岡田
10	フィールドワーク	大西・岡田
11	フィールドワーク	大西・岡田
12	フィールドワーク	大西・岡田
13	フィールドワーク	大西・岡田
14	フィールドワーク	大西・岡田
15	フィールドワーク	大西・岡田
16	フィールドワーク	大西・岡田
17	フィールドワーク	大西・岡田
18	フィールドワーク	大西・岡田
19	フィールドワーク	大西・岡田
20	フィールドワークの分析と課題 (まとめ・発表)	大西・岡田
21	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
22	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
23	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
24	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
25	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
26	英語論文購読の基本・方法・実際	大西 文子
27	英語論文の構成と読み方	岡田 摩理
28	英語論文購読の学生のプレゼンテーション・討議	大西・岡田
29	英語論文購読の学生のプレゼンテーション・討議	大西・岡田
30	まとめ	大西・岡田

授業方法

第1回：講義、第2回～第3回・第4回～第7回：講義・学内演習、第8回～9回：プレゼンテーション・討議、第10回～19回：フィールドワーク、第20回：学内演習・プレゼンテーション、第21回～第25回：プレゼンテーション・討議、第26回～第27回：講義、第28回～第29回：プレゼンテーション・討議

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

指定なし

参考図書

授業の際、適宜紹介する。

評価方法

プレゼンテーション・発表(30%)、討議への参加(20%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

各レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

研究・教育者コース必修

小児看護支援論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理・山崎 嘉久			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を探求するとともに、母子プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、関係専門職および諸機関に対する今後の課題を修得する。

【到達目標】

1. 現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を理解できる。
2. 小児プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、今後の課題を修得する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/子どもを取り巻く社会環境の現状分析	大西・岡田
2	日本と世界における経済・文化・自然	大西 文子
3	日本と世界における経済・文化・自然	大西 文子
4	日本と世界における家族・保育園・学校(教育)	大西 文子
5	日本と世界における家族・保育園・学校(教育)	大西 文子
6	小児保健: 小児保健統計、母子保健行政および施策(第一次・第二次健やか親子を含む)	岡田 摩理
7	小児保健: 小児保健統計、母子保健行政および施策(第一次・第二次健やか親子を含む)	岡田 摩理
8	学校保健: 学校保健統計、学校保健行政および施策	岡田 摩理
9	学校保健: 学校保健統計、学校保健行政および施策	岡田 摩理
10	親の育児困難・不安と子育て支援	大西 文子
11	虐待の現状と虐待防止対策(虐待防止法を含む)	山崎 嘉久
12	虐待の現状と虐待防止対策(虐待防止法を含む)	山崎 嘉久
13	子どもの貧困	大西 文子
14	親子保健/リプロダクティブ/ヘルス・ライツ	岡田 摩理
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回: 講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

「日本子ども資料年鑑 2021」, 母子愛育会愛育研究所編, KTC中央出版, 370.3/N77/ '21, 2021年2月刊行予定

「国民衛生の動向 2020/2021」(雑誌「厚生指標」増刊), 厚生労働統計協会編集, 厚生労働統計協会, 雑誌・製本雑誌架, 2021年8月刊行予定

「国民の福祉と介護の動向 2020/2021」(雑誌「厚生指標」増刊), 厚生労働統計協会編集, 厚生労働統計協会, 雑誌・製本雑誌架, 2021年8月刊行予定

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加(50%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他
専門看護師コース必修

小児看護ヘルス・アセスメント論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児各期の総合的な健康状態を評価するために、フィジカル・アセスメントの具体的な方法を学び、発達評価や家族アセスメントと統合して、包括的なヘルス・アセスメントの方法を修得する。

【到達目標】

1. 小児と家族への問診や観察技術において、アセスメントの視点が理解できる。
2. 小児の系統的なフィジカル・アセスメントの方法を理解し、実施することができる。
3. 小児各期の発達を踏まえたヘルス・アセスメントを理解し、実施することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/小児の包括的なヘルス・アセスメント	大西・岡田
2	子どもと家族への問診や観察の方法とアセスメントの視点(子どもに特徴な問診・診察技術・治療的コミュニケーション)	岡田 摩理
3	一般状態のアセスメント(健康歴聴取・成長発達・バイタルサイン測定等からの全身状態の把握)	大西 文子
4	皮膚・爪・頭頸部・神経系のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
5	眼・耳・鼻のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
6	胸部・呼吸器のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
7	心臓・血管のフィジカル・アセスメント	大西 文子
8	腹部のフィジカル・アセスメント	大西 文子
9	骨格・筋・運動機能のフィジカル・アセスメント	大西 文子
10	鼠径・生殖器のフィジカル・アセスメント	大西 文子
11	子どものヘルス・アセスメント(乳児期)	岡田 摩理
12	子どものヘルス・アセスメント(幼児期)	岡田 摩理
13	子どものヘルス・アセスメント(学童期・思春期)	岡田 摩理
14	子どもと家族への問診と観察方法の実際(事例演習)	大西・岡田
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

「こどものフィジカル・アセスメント」, 土井まつ子, 梶山委都子, 仲井美由紀編集, 金原出版, N12/Ko21, 4307170474

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加(50%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児の病態と治療	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 後藤 芳充・神田 康司・石井 睦夫・犬飼 幸子・山田 崇春・圓若 かおり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児期の疾患と治療の理解に基づく専門的なケアを提供するために、病態生理、検査、治療方法を修得する。

【到達目標】

1. 小児期の主要な疾患の病態と検査、治療を理解できる。
2. 専門的なケアを提供するための治療方法として、人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	小児の薬物療法	後藤 芳充
2	低出生体重児の病態と診断・検査・治療	山田 崇春
3	先天性心疾患の病態と診断・検査・治療	犬飼 幸子
4	小児消化器疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
5	小児腎・尿路疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
6	小児内分泌・代謝疾患の病態と診断・検査・治療	圓若 かおり
7	小児アレルギー・免疫疾患の病態と診断・検査・治療	神田 康司
8	小児血液・腫瘍の病態と診断・検査・治療	石井 睦夫
9	小児血液・腫瘍の病態と診断・検査・治療	石井 睦夫
10	小児脳神経疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
11	小児外科疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
12	小児外科疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
13	重症心身障害の病態と診断・検査・治療 (人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を含む)	後藤 芳充
14	重症心身障害の病態と診断・検査・治療 (人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を含む)	後藤 芳充
15	まとめ・授業評価	後藤 芳充

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

必要時、参考書の紹介、資料の配布を行う。

評価方法

討議およびプレゼンテーションへの参加(50%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児CNS機能と役割演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理・太田 有美・田崎 あゆみ・深谷 基裕・加藤 美也子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における高度実践看護師の役割と活動に必要な倫理的判断能力、調整・教育・相談の高度な実践技術を学び、複雑な症例について小児と家族及び専門職者に適した援助方法を開発する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護学の機能と役割・今後の展望の現状から、高度実践看護師の果たすべき役割や活動を理解できる。
2. 小児看護領域における権利擁護の視点、管理や技術の現状・課題を理解できる。
3. 小児の援助を導き出す基本的な理論を活用して、複雑で困難な健康問題や生活に課題を抱える事例をアセスメントし、解決方法を理解できる。
4. 組織の現状分析から、小児看護に必要な実践・倫理調整・教育・調整・相談・研究についての課題を見出し、具体的な方略を検討し提示することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション ・日本および外国における小児看護学の機能と役割・今後の展望 ・高度実践看護師（APN）の役割と活動	大西・岡田
2	子どもと家族の権利擁護に関する現状と課題（マル・トリートメントを含む）	大西・岡田
3	小児看護管理の現状（小児科外来、小児病棟、リスクマネジメント）	大西・岡田
4	小児看護技術の現状と課題	大西・岡田
5	セルフケア不足理論と依存的ケア理論を活用した看護過程とその展開方法	大西・岡田
6	セルフケア不足理論と依存的ケア理論を活用した看護過程とその展開方法	大西・岡田
7	紙上事例を用いた看護展開方法 （ハイリスク新生児およびNICU看護）	加藤・大西・岡田
8	紙上事例を用いた看護展開方法 （ハイリスク新生児およびNICU看護）	加藤・大西・岡田
9	紙上事例を用いた看護展開方法（急性期にある子どもと家族の看護）	大西 文子
10	紙上事例を用いた看護展開方法（慢性期にある子どもと家族の看護）	岡田 摩理
11	紙上事例を用いた看護展開方法 （終末期にある子どもと家族の看護）	大西 文子
12	組織の現状分析	太田・大西・岡田
13	組織の現状分析	太田・大西・岡田
14	小児看護における退院調整（演習を含む）	太田・大西・岡田
15	小児看護における退院調整（演習を含む）	太田・大西・岡田
16	小児看護における高度実践（演習を含む）	深谷・大西・岡田
17	小児看護における高度実践（演習を含む）	深谷・大西・岡田
18	倫理調整（事例分析、援助方法の提案、演習を含む）	太田・大西・岡田
19	倫理調整（事例分析、援助方法の提案、演習を含む）	太田・大西・岡田
20	教育（ニード分析、教育計画立案、演習を含む）	田崎・大西・岡田
21	教育（ニード分析、教育計画立案、演習を含む）	田崎・大西・岡田
22	調整（事例分析、調整の方略の提示、演習を含む）	田崎・大西・岡田
23	調整（事例分析、調整の方略の提示、演習を含む）	田崎・大西・岡田
24	相談（演習を含む）	田崎・大西・岡田
25	相談（演習を含む）	田崎・大西・岡田
26	研究（演習を含む）	深谷・大西・岡田

回数	内容	担当者
27	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
28	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
29	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
30	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

「オレム看護論入門：セルフケア不足看護理論へのアプローチ」, コニー・M・デニス著, 小野寺杜紀監訳, 医学書院, N01/071, 9784260343886

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

演習および討議への参加(50%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習	1年 後期	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

代表的な疾患、診断・治療の経過を理解し、診断治療のプロセスを踏まえて、症状と治療方法をアセスメントできる能力を養う。小児看護専門看護師として、卓越したケアを実践するために、子どもや家族の複雑な健康問題を理解し、問題解決への手立てを考察する能力を養う。

【到達目標】

1. 小児科医のシャドーイング実習を行い、年齢が異なる子どもや複数の疾病種類からなる10事例以上の子どもの診断・治療の理解を深める。
2. 小児によく見られる代表的な疾患の理解、診断・治療の経過について理解できる。
3. 子ども・家族に対して、子どもに関する疾患の理解や診断・治療の経過を踏まえたアセスメントができ、エビデンスに基づいた対象の健康生活を維持・促進するための援助を専門看護師として実践できる。
4. 経験事例について、プロセスを振り返りエビデンスのあるレポートにまとめることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>実習単位：2単位（90時間以上） 実習場所：名古屋第二赤十字病院小児科外来または小児病棟 実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児科医師が勤務する臨地において、小児科医師のシャドーイング実習を行う。 2) 医師の診療場面や臨床カンファレンスおよび病棟回診に参加し、子どもの症状に関する診断の手がかりから診断プロセスを追い、症状と治療法を関連づける。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の診断プロセス（診断の手がかりをつかむ） 2) 治療の選択、症状マネジメント、フィジカル・アセスメント 3) 小児と家族へのIC 4) 具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) できるだけ年齢が異なる子どもを選択する。 新生児期、乳児期、幼児前期、幼児後期、学童期、思春期、キャリアオーバーにある時期 (2) 疾患や診断・治療の経過を理解するために、同じ疾患をもつ事例を複数例担当する。 低出生体重児、小児消化器疾患、先天性心疾患、小児腎疾患、小児内分泌疾患、小児アレルギー疾患、小児血液・腫瘍、小児脳神経疾患、重症心身障害児、小児精神疾患など。 5) 実習指導・助言 <ol style="list-style-type: none"> (1) 毎日、学生自身がショートカンファレンスを開き、実習調整を図る。 (2) 実習場で、指導医師または指導医師以外へ質問・確認し、助言を積極的に受け学ぶ。 (3) 担当教員のスーパービジョンは、実習場および大学で適宜行う。 6) レポートにまとめる際の注意事項 年齢が異なる子どもや複数の疾病種類からなる10事例以上の小児の診断・治療に関するレポートに取り組む。 	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考図書の紹介、資料の配布を行う。

評価方法

実習評価表（40％）、レポートにおけるケーススタディ 評価（40％）、実習・討議への参加度（20％）

フィードバック

レポート提出毎にフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習（CNS機能と役割実習）	2年 前期	2単位（90時間）	選択必修
担当：大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における高度実践者として、新生児期から思春期にある子どもやその家族に対して、より質の高い効果的なケアを行うためのCNSの機能と役割〔実践、相談、教育、調整（チームアプローチとパートナーシップ）、倫理調整、研究〕について、講義と演習で修得した内容を統合し、看護実践の実際を理解する。

【到達目標】

1. 小児看護専門看護師（CNS）の活動の実際を見学し、6つの機能と役割について理解する。
2. 小児看護専門看護師（CNS）の視点から、組織や場の現状分析を行い、小児看護における課題を見出し、研究の視点を見出すことができる。
3. 小児看護専門看護師（CNS）の視点から、小児看護における課題解決のための方略を創造的に見出すことができる。
4. 小児看護専門看護師（CNS）の指導のもと、複雑あるいは解決困難な問題を抱えるケースを受け持ち、多角的視点からアセスメントした上でエビデンスに基づいた直接ケアを実践することができる。
5. 子どもと家族に対してより質の高いケアを提供するために、小児看護専門看護師（CNS）として自らの6つの機能と役割を用いた実践内容を分析し、成果や課題を明らかにできる。
6. 小児看護専門看護師（CNS）としての自らのあり方・資質・能力を客観的に分析した上で自己課題を明確にし、自律的に取り組むことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習単位：2単位（90時間以上） 2. 実習場所 名古屋第一赤十字病院：小児病棟、小児外来、新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）、ICU、院内学級 あいち小児保健医療総合センター：各病棟、各外来、特別支援学校 トヨタ記念病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU 3. 実習内容 1) 展開方法 小児看護専門看護師が勤務する臨地において、CNSの6つの役割と機能の実際を、主体的に見学・参加する。特に実践では、小児看護CNSと指導教員のスーパービジョンを受けながら、取り組む。 2) 実習内容 (1) 小児看護専門看護師の役割と機能における見学・参加実習内容 小児看護におけるリエゾン看護 相談活動 チームアプローチとパートナーシップ 小児看護におけるスタッフ教育 その他：コーチング、ファシリテーション、ソリューションフォーカス等 (2) 小児看護専門看護師の役割と機能における実践 先天性奇形・疾病および障害の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族などへの看護	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表（40%）、ケーススタディ評価（40%）、討議への参加度（20%）

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習	2年 前期	4単位 (180時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

卓越した専門的能力を持つ小児看護高度実践者として、新生児期から思春期にある複雑で解決困難な問題を抱える子どもやその家族に対して、CNSの機能と役割〔実践、相談、教育、調整（チームアプローチとパートナーシップ）、倫理調整〕を用いて、子どもと家族の健康生活を維持・促進するためのより質の高い効果的なケアを実践できる高度な実践技術を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護専門看護師（CNS）として、新たな組織の中で保健医療福祉専門職者の一員として、他の専門職者を尊重した関係性を構築できる。
2. 小児看護専門看護師（CNS）として、複雑あるいは解決困難な問題を抱えるケースを受け持ち、多角的視点からアセスメントした上でエビデンスに基づいた直接ケアを自律的に実践する。
3. 小児看護専門看護師（CNS）として、小児看護に携わるケア提供者の悩みや葛藤を引き出し、内容に応じた相談を実施し、肯定的変化に導くことができる。
4. 小児看護専門看護師（CNS）として、子どもと家族に対してよりよいケアを提供するために、小児看護における保健医療福祉・教育関係者間の認識・意思統一及び共通したビジョンのもとにケアを展開するための調整を実施できる
5. 小児看護専門看護師（CNS）として、子どもと家族について権利擁護の観点から、問題となる事象や葛藤について気づき、倫理分析を行った後に解決に向けた活動を実施できる。
6. 小児看護専門看護師（CNS）として、個人・組織の顕在的・潜在的教育ニーズを抽出し、各ニーズに対応したケアの質の向上に寄与する教育活動を実施できる
7. 小児看護専門看護師（CNS）としての自らのあり方・資質・能力を客観的に分析した上で、CNSの機能における自己課題を明確にし、自律的に取り組みことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習期間：小児CNS機能と役割演習終了後～2年 2. 実習施設 1) 実習対象施設 名古屋第一赤十字病院：小児病棟、小児外来、新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）、ICU、院内学級 名古屋第二赤十字病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU、院内学級 あいち小児保健医療総合センター：各病棟、各外来、特別支援学校 トヨタ記念病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU 2) 実習施設の選択 学生の職務経験・興味・関心をふまえ、上記施設の内、一人の学生が一施設を実習施設として選択し、実習を行うものとする。原則として、小児CNS機能と役割実習の実習施設とは異なる施設を選択する。 3. 実習内容：専門看護師の指導のもと、自立して場や状況の開拓を行い、直接的ケア2事例、その他の機能については必要時レポートをまとめ評価を受ける。 実習計画：小児看護学実習 の要項を参照する。	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表(40%)、ケーススタディ評価(20%)、プロセスレコード評価(20%)、討議への参加度(20%)

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習（小児看護高度実践統合実習）	2年 通年	2単位（90時間）	選択必修
担当：大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護実践を通して、小児看護専門看護師の機能のうち特に多職種との連携・協働、調整、倫理調整などの役割の理解を深めるとともに、これらの役割を発揮し、リーダーシップがとれる専門的看護実践能力を修得する。さらに、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策が実践できる。

【到達目標】

1. 複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護を計画し実践できる。事例の分析を通して、必要な多職種との連携・協働、調整・倫理調整などを含めた高度看護実践技術を活用する。
2. 複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な多職種との連携・協働、調整、倫理調整において、リーダーシップをとり、専門的看護実践能力を発揮できる。
3. 小児看護専門看護師（CNS）として、組織のもつ顕在的な研究ニーズの分析や自己の研究分野に関連した視点から、組織で取り組まれている看護を分析して課題を抽出し、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策について考察・実践する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	実習期間：小児看護学実習 終了後～2年後期 実習場所：名古屋第二赤十字病院：小児病棟、小児科外来、NICU、ICU、院内学級 必要に応じて必要な医療福祉教育機関も含む。 実習内容 1. 子どもと家族の問題を分析し、解決のための看護実践を行う。家族調整への適切な倫理調整を図る。 2. 複雑あるいは解決困難な事例への調整の実際を学ぶ。 3. 複雑あるいは解決困難な事例にかかわる看護師と協働し、専門看護師が多職種との連携・協働、調整、倫理調整をどのように展開しているのかを把握し、実践する。 4. 子どもと家族の健康問題の解決に必要とされる多職種との連携・協働を適切に行う。 ・専門看護師の指導のもと、自立して場や状況の開拓を行い、直接的ケア3事例以上のレポートをまとめ評価を受ける。事例では、子どもとその親・家族に対して卓越した看護を実施する過程において、必要な調整、倫理調整を行う。 ・事例数については、各自の修得状況によって異なる場合もある。 ・実習計画：小児看護学実習 の要項を参照する。	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表（40%）、ケーススタディ評価（20%）、プロセスレコード評価（20%）、討議への参加度（20%）

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

老年・在宅看護学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・清水 みどり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高齢者の生涯発達および健康・生活に関する概念および理論を理解し、老年看護・在宅看護の実践と研究への適応について検討する。

【到達目標】

1. 高齢者の特徴をエイジング、生涯発達理論等を基に説明できる。
2. 老年看護・在宅看護の基盤となる理論・概念を説明できる。
3. 高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価方法について説明できる。
4. 老年看護・在宅看護領域における倫理的課題と倫理的調整について説明できる。
5. 老年看護・在宅看護に関する課題を検討し記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス	小林 尚司
2	高齢者を理解するための理論・概念：生涯発達理論 ライフヒストリー	小林 尚司
3	高齢者を理解するための理論・概念：家族 環境	小林 尚司
4	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：セルフケア	小林 尚司
5	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：コンフォート	小林 尚司
6	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：家族看護	小林 尚司
7	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：多職種連携	小林 尚司
8	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：身体・精神的機能	小林・清水
9	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：社会的機能・日常生活機能	小林・清水
10	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：家族アセスメント	小林 尚司
11	老年・在宅看護における倫理的課題：意思決定におけるジレンマ	小林 尚司
12	老年・在宅看護における倫理的課題：エイジズム	小林 尚司
13	老年・在宅看護における倫理的課題：虐待	小林 尚司
14	老年看護・在宅看護の展望と課題	小林・清水
15	まとめ	小林・清水

授業方法

第1回：講義 第2～15回：文献購読・発表・討議・講義（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

予習は、上記の内容に該当する文献を読む。復習は、授業で学習した内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。（適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

課題（プレゼンテーション30％・レポート40％）、受講態度（30％）を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他
なし

認知症ケア特論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・清水 みどり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

認知症を持つ高齢者やその家族を看護するために必要な知識と技術を学び、認知症を持つ高齢者の生活を支える看護を探究する。

【到達目標】

1. 認知症高齢者の行動心理症状とその対応について説明できる。
2. 認知症高齢者を支えるサポートシステムについて説明できる。
3. 認知症高齢者およびその家族にとっての望ましい生活とそのための看護について理論的に探究し、記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	小林 尚司
2	認知症の病態と治療	小林 尚司
3	認知症のリハビリテーション・非薬物療法	小林 尚司
4	認知症の心理行動症状	小林 尚司
5	認知症高齢者の主観的な体験	小林 尚司
6	認知症高齢者のケアの原則	小林 尚司
7	Pearson-Centered Careとケアマッピング	小林 尚司
8	認知症高齢者とのコミュニケーション	小林 尚司
9	認知症高齢者のアセスメント	小林 尚司
10	認知症高齢者における倫理的課題と意思決定支援	小林 尚司
11	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林・清水
12	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林・清水
13	在宅認知症高齢者の家族の支援	小林 尚司
14	在宅認知症高齢者の多職種連携	清水 みどり
15	まとめ：認知症ケアのエキスパート像	小林 尚司

授業方法

第1回：講義 第2～15回：文献購読・発表・討議・講義（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

予習は該当する内容について、文献学習を行う。復習は授業内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。（適宜）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

課題（プレゼンテーション30%・レポート40%）、受講態度（30%）を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他

なし

老年・在宅療養者共生支援論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・清水 みどり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高齢者・在宅療養者の健康問題および生活障害とサポートシステムを理解し、生活の場や状況に応じた看護を探究する。

【到達目標】

1. 老化に伴う身体・心理・社会的な機能の変化とその評価について説明できる。
2. 高齢者・在宅療養者の健康および生活を支える社会資源について説明できる。
3. 高齢者・在宅療養者の生活と機能を維持する支援について説明できる。
4. 終末期にある高齢者・在宅療養者とその家族への支援について説明できる。
5. 在宅で療養する難病患者への災害時および多職種による支援について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 高齢者・在宅療養者の生活をとらえる視点	小林 尚司
2	老化による心身機能の変化：身体的・精神的・社会的機能の評価	小林 尚司
3	保健医療福祉制度および施策と看護	小林 尚司
4	高齢者の生活の場に応じた支援	清水 みどり
5	高齢者の機能維持の技術	清水 みどり
6	終末期にある高齢者とその家族の看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	小林・清水
7	終末期にある高齢者とその家族の看護：アドバンス・ケア・プランニング、蘇生不要指示	小林・清水
8	終末期にある高齢者とその家族の看護：悲嘆・グリーフケア	小林・清水
9	在宅療養者とその家族の看護：終末期療養者支援におけるモラルジレンマ	小林・清水
10	在宅療養者とその家族の看護：在宅難病患者の災害時支援 専門職支援	小林 尚司
11	在宅療養者とその家族の看護：在宅難病患者の災害時支援 当事者・自助力	小林 尚司
12	在宅療養者とその家族の看護：地域包括ケアにおける多職種連携の実践	小林 尚司
13	在宅療養者とその家族の看護：多重課題を持つ療養者支援におけるモラルジレンマ	小林 尚司
14	在宅療養者とその家族の看護：在宅神経難病患者支援 コミュニケーションツール	小林 尚司
15	まとめ	小林・清水

授業方法

第1回：講義 第2～15回：文献購読・発表・討議・講義（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

予習は、上記の内容に該当する文献を読む。復習は、授業で学習した内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。（適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

課題（プレゼンテーション30%・レポート40%）、受講態度（30%）を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他

なし

老年・在宅看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・清水 みどり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

老年看護・在宅看護に関する現象の分析力と課題の解決策を検討する力を培うことを目的とする。

【到達目標】

1. 経験した事例について、その現象が生じる背景について、文献並びに理論を用いて多面的かつ総合的に探究できる。
2. 問題の分析に必要な情報を検討し、実際にフィールドに赴いて情報を得ることができる。
3. フィールドワークを評価・修正できる。
4. フィールドワークで得た情報をもとに、老年看護・在宅看護の今後の課題とその研究への適用について検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 老年看護・在宅看護の特性	小林・清水
2	老年看護・在宅看護に関する経験の振り返り	小林・清水
3	老年看護・在宅看護に関する問題提起	小林・清水
4	フィールドワークの準備 理論を用いて経験について分析し、問題の焦点を明確化する	小林・清水
5	フィールドワークの準備 理論を用いて経験について分析し、問題の焦点を明確化する	小林・清水
6	フィールドワークの準備 理論を用いて経験について分析し、問題の焦点を明確化する	小林・清水
7	フィールドワークの準備 理論を用いて経験について分析し、問題の焦点を明確化する	小林・清水
8	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・清水
9	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・清水
10	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・清水
11	フィールドワークの実施	小林・清水
12	フィールドワークの実施	小林・清水
13	フィールドワークの実施	小林・清水
14	フィールドワークの実施	小林・清水
15	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・清水
16	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・清水
17	データの解釈による問題の精練と、必要な追加データの検討	小林・清水
18	データの解釈による問題の精練と、必要な追加データの検討	小林・清水
19	再フィールドワーク	小林・清水
20	再フィールドワーク	小林・清水
21	再フィールドワーク	小林・清水
22	再フィールドワーク	小林・清水
23	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・清水
24	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・清水
25	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・清水
26	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・清水
27	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・清水
28	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・清水
29	今後の課題の研究への適用 まとめ	小林・清水
30	今後の課題の研究への適用 まとめ	小林・清水

授業方法

第1回：講義、第2～10回・第15～18回・第23～30回：文献購読・発表・討議・講義、
第11～14回・第19～22回：介護施設または訪問看護ステーション等でフィールドワーク
(新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン授業も実施)

時間外学習

授業前は、文献を読みプレゼンテーションおよび討議・フィールドワークの準備を行う。
授業後には、討議やフィールドから得た課題に応じた学習を行う。(時間は必要に応じて
適宜)

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

受講態度(50%)、レポート(50%)を総合して評価する。

フィードバック

討議の中でフィードバックを行う。

その他

なし

精神保健医療論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神的な問題を持つ人の支援に有用な精神保健医療、福祉の制度や体制を理解したうえで、患者と家族の基本的な人権を保障し、QOL向上をめざす精神医療の展望を探求する。

【到達目標】

1. 看護実践上の法的・倫理的概念、健康行動、ソーシャルサポート、エンパワメント、自立支援の概念が理解できる。
2. 地域の社会資源・施設の有効活用、支援に必要な資源開発の観点、および現状の医療制度における高度専門看護職の機能について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス：精神保健医療福祉政策と社会の諸側面	村瀬 智子
2	精神障がい者の保健医療福祉政策とその歴史	村瀬 智子
3	精神保健福祉法の思想と現行施策	村瀬 智子
4	精神障がい者の人権擁護と法	村瀬 智子
5	精神障がい者の入院支援の功罪 リハビリテーションと社会化	村瀬 智子
6	保健医療状況における家族支援	村瀬 智子
7	精神障がい者ノーマライゼーションの国際的動向とその具体的な取り組み例	村瀬 智子
8	ソーシャルサポート - 生活支援制度と社会資源の開発	村瀬 智子
9	ケースマネジメントと精神保健医療福祉に関わる専門職との連携	村瀬 智子
10	エンパワメントとセルフヘルプグループ	村瀬 智子
11	演習：自立支援と就業支援の現状とケア	村瀬 智子
12	演習：周辺地区の保健福祉施設の支援状況：プレゼンテーションとディスカッション	村瀬 智子
13	演習：周辺地区の心の支援プログラム探索 活用の可能性：プレゼンテーションとディスカッション	村瀬 智子
14	演習：外来と病棟における患者と家族の統括的ケアとは	村瀬 智子
15	まとめ 高度実践看護師の役割と機能、その展望	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「精神保健：現代の視点と展開」, 神郡博編著, 看護の科学社, 493.79/Ka37, 9784878040320

参考図書

「日本精神病治療史」，八木剛平，田辺英著，金原出版，493.7/Y15，4307150562
「西欧精神医学背景史」（みすずライブラリー），中井久夫著，みすず書房
，493.7/N34，4622050463
「精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル」，ロバート・ポー
ル・リバーマン著；SST普及協会訳，星和書店，493.72/L61，9784791107650
「精神障害者枠で働く：雇用のカギ就労のコツ支援のツボ」，里中高志著，中央法規出
版，366.28/Sa87，9784805839997
「呉秀三・榎田五郎精神病者私宅監置の実況 現代語訳」，呉秀三，榎田五郎著；金川
英雄訳・解説，医学書院，493.7/Ku59，9784260016643
「知のバリアフリー：「障害」で学びを拓げる」，嶺重慎，広瀬浩二郎編，京都大学学
術出版会，378/Mi43，9784876985425
「未来共創の哲学：大統一生命理論に挑む」，村瀬雅俊，村瀬智子著，言叢社
，461/Mu57，9784862090799
適宜、紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

看護師としての勤務経験を持つ担当教員が、精神保健医療に関する専門知識や看護の視点について本科目で教授する。

精神健康行動評価論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・服部 希恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神の健康状態のアセスメントおよび精神病理の理解と評価方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 精神障がいの原因・徴候・経過と予後についてライフスパンにおいて捉え理解できる。
2. DSM-5やICD-10などの精神障害診断基準について比較検討し、看護の視点から評価できる。
3. 精神状態を評価する様々な評価尺度の活用方法について理解できる。
4. ライフステージやライフコースに応じた評価尺度の選択について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス / 看護過程と看護診断 看護面接技術と情報収集	村瀬 智子
2	精神状態のアセスメント(Mental Status Examinations)	村瀬 智子
3	心理社会的アセスメントと評価	村瀬 智子
4	精神障がい診断基準：DSM-5とICD-10	村瀬 智子
5	統合失調症の理解と評価	村瀬 智子
6	感情障がいの理解と評価	村瀬 智子
7	認知機能障がいの理解と評価 せん妄の理解と評価	村瀬 智子
8	自殺のアセスメント	村瀬 智子
9	不安・抑うつ・怒り・攻撃性・トラウマ・虐待・DVのアセスメントと評価 暴力被害サバイバーのアセスメント 暴力の評価とアンガーコントロール	村瀬 智子
10	薬物・アルコール依存症のアセスメント	村瀬 智子
11	精神身体合併症とフィジカル・アセスメント	村瀬 智子
12	AIDSの精神医学的側面	村瀬 智子
13	精神看護学の教育方法 精神障がいをもつ人の言動の意味と現象学 失敗から学ぶ精神看護学	村瀬 智子
14	精神看護学の継続教育方法 主観 客観の対立的共存	村瀬 智子
15	まとめ：精神保健医療において看護の視点でアセスメントし評価判定することの意義と重要性について討論する。	服部・村瀬

授業方法

講義、発表、討論（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

なし

参考図書

「Desk reference to the diagnostic criteria from DSM-5[TM]」, American Psychiatric Association, American Psychiatric Pub., 493.72/A44, 9780890425565
 「DSM 5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編; 染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071
 「ICD-10精神および行動の障害: 臨床記述と診断ガイドライン」, 新訂版, World Health Organization編; 融道男他訳, 医学書院, 493.72/W67, 4260001337
 「看護診断ハンドブック」, 第11版, リンダ J. カルペニート著; 黒江ゆり子他訳, 医学書院, N74.1/C21/11th, 9784260034517
 「NANDA-I看護診断: 定義と分類 2018-2020」, T.ヘザー・ハードマン編; 上鶴重美編訳, 医学書院, N74.1/N48/'18-20, 9784260034432
 「ケアの評価とナースサポート」(精神看護エクスペール9), 萱間真美, 松下正明本巻責任編集, 中山書店, N20/Sa37/9, 電子Book版もあります, 4521019110
 「身体合併症の看護」(精神看護エクスペール3), 第2版, 櫻庭繁, 松下正明本巻責任編集, 中山書店, N20/Sa37/3, 電子Book版もあります, 9784521731599
 「衝動性と精神看護」(精神看護エクスペール20), 坂田三允総編集, 中山書店, N20/Sa37/20, 電子Book版もあります, 9784521604312
 「統合失調症急性期看護マニュアル」, 改訂版, 阿保順子, 佐久間えりか編, すぴか書房, N21/A14/2nd, 9784902630138
 「精神科看護: 原理と実践」(看護学名著シリーズ), Stuart, G & Laraia, M著; 安保寛明他監訳, エルゼビア・ジャパン, N20/St9, 9784860348823
 「Physical examination & health assessment」, 8th ed., Carolyn Jarvis, Saunders, N10.12/J25/8th, 9780323510806
 「心理社会的援助の看護マニュアル: 看護診断および看護介入の実際」, リンダ・M・ゴーマン他編著; 荒井良直, 橋本ゴンティエ ルミ訳, 医学書院, N01.2/G68, 4260343920
 「抗精神病薬の「身体副作用」がわかる: the third disease」, 長嶺敬彦著, 医学書院, 493.763/N15, 9784260002790
 「メンタルステータスイグザミネーション: 他科に誇れる精神科看護の専門技術 1」, 武藤教志編著, 精神看護出版, N20/Mu91/1, 9784862940582
 「メンタルステータスイグザミネーション: 他科に誇れる精神科看護の専門技術 2」, 武藤教志編著, 精神看護出版, N20/Mu91/2, 9784862940599
 「未来共創の哲学: 大統一生命理論に挑む」, 村瀬雅俊, 村瀬智子著, 言叢社, 461/Mu57, 9784862090799
 その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、プレゼンテーション〔50%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

精神看護学地域共生論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

人間は開放系として、環境との相互作用を行いながら生活を営んでいる。したがって、環境の影響は全人的な健康を保持・増進する上で重要な要因となる。

本科目では精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、講義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直す。その上で、環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、ストレングスを活かしながら自己決定を支える看護の視点から具体的事例に基づき論考する。

【到達目標】

1. 全人的な健康を保持・増進する上で、環境が重要な影響要因であることが理解できる。
2. 精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直すことができる。
3. 環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、家族構造や生活環境の変化の観点から述べるができる。
4. スtrenグスを活かしながら自己決定を支える看護という視点から具体的事例を検討することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 心身の健康と環境看護	村瀬 智子
2	文化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
3	文化と心身の健康（実践編）：自閉症、広汎生発達障害	原田 真澄
4	家族構造の変化と心身の健康（理論編）	原田 真澄
5	家族構造の変化との心身の健康（実践編） ：虐待、育児放棄、老年期精神病	原田 真澄
6	生活環境の変化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
7	生活環境の変化と心身の健康（実践編1） ：環境汚染病、過敏症、依存症	村瀬 智子
8	生活環境の変化と心身の健康（実践編2） ：急性ストレス障害、適応障害、摂食障害、高次脳機能障害	原田 真澄
9	統合・崩壊過程と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
10	統合・崩壊過程と心身の健康（実践編）：統合失調症、人格障害	原田 真澄
11	病の進化論とライフサイクル（理論編）	村瀬 智子
12	病の進化論とライフサイクル（実践編） ：ライフサイクルにおける気分障害、認知症	原田 真澄
13	ストレングスを活かし自己決定を支える精神看護	村瀬 智子
14	構造主義の観点から捉えた環境看護論	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

本科目を受講するためには、全人的な健康とは何かということを改めて問い直し、文化、家族、生活を含む広義の“環境”という概念を検討するための基本的知識が必要です。その上で、精神疾患について捉えなおすことが求められます。そのため、本科目を受講するにあたっては、教科書や参考図書などを事前に十分予習して授業に臨み、その後は授業で学んだことや、引用された文献を読み直すなど、学びを振り返る復習が必要不可欠です。予習復習は、1回の授業につき少なくとも1週間程度が必要です。

教科書

「人間エコロジーと環境汚染病：公害医学序説」（人間選書92），セロン・G・ランドルフ著；松村竜雄，富所隆三訳，農産漁村文化協会，498.48/R14，4540860240

参考図書

- 「生命とストレス：超分子生物学のための事例」, ハンス・セリエ著；細谷東一郎訳
, 工作舎, 491.349/Se49, 4875022840
- 「Florence Nightingale today: healing, leadership, global action」, B.
M. Dossey, L. C. Selanders, D. M. Beck and A. Attewell, American Nurses
Association, N02.8/N71, 1558102205
- 「The strengths model: a recovery-oriented approach to mental health services」
, 3rd ed., Charles A. Rapp, Richard J. Goscha, Oxford University
Press, 369.28/R17/3rd, 9780199764082
- 「文明と病氣」上・下(岩波新書, 青版850,851), H. E. シゲリスト著；松藤元訳, 岩
波書店, 080/I95/850,851
- 「生涯発達心理学：エリクソンによる人間の一生とその可能性」, 新版, B. M. Newman &
P. R. Newman著；福富護訳, 川島書店, 143/N68, 4761003901
- 「はじめての構造主義」(講談社現代新書898), 橋爪大三郎著, 講談社
, 080/Ko19/898, 4061488988
- 「化学物質過敏症」(文春新書230), 柳沢幸雄, 石川哲, 宮田幹夫著, 文藝春秋
, 080/B89/230, 4166602306
- 「精神科看護：原理と実践」(看護学名著シリーズ), Stuart, G & Laraia, M著；安保
寛明監訳, エルゼビア・ジャパン, N20/St9, 9784860348823
- 「Principles and practice of psychiatric nursing」, 10th ed., Gail Wiscarz
Stuart編, Elsevier/Mosby, N20/St9/10th, 9780323091145

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組
み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

研究・教育者コース必修

精神看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護学における中心的な概念や現象について理解を深め、精神看護学における文献検討を通して、研究課題を探究する能力を養う。

【到達目標】

1. 精神看護学に関わる概念や研究の動向を踏まえて文献検討ができる。
2. 精神看護学の研究課題の探究ができる。
3. 精神看護学における研究方法の検討ができる。
4. 研究計画書を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 精神看護学の特徴と課題	村瀬 智子
2	精神看護学に関わる重要概念（ストレンクス、レジリエンス、リフォーミング、ライフサイクル、治療的環境等）と概念分析	村瀬・原田
3	精神看護学に関わる重要概念（ストレンクス、レジリエンス、リフォーミング、ライフサイクル、治療的環境等）と概念分析	村瀬・原田
4	精神看護学における研究の動向、文献検討の方法	村瀬・原田
5	精神看護学における研究の動向、文献検討の方法	村瀬・原田
6	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
7	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
8	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
9	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
10	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
11	精神看護学における研究課題の探求：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
12	精神看護学における研究方法の検討：研究目的の明確化と研究デザインの検討（発表・討議）	村瀬・原田
13	精神看護学における研究方法の検討：研究目的の明確化と研究デザインの検討（発表・討議）	村瀬・原田
14	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
15	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
16	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
17	精神看護学における研究方法の検討：研究における倫理的配慮の検討（発表・討議）	村瀬・原田
18	フィールドワークガイダンス	村瀬・原田
19	フィールドワーク	村瀬・原田
20	フィールドワーク	村瀬・原田
21	フィールドワーク	村瀬・原田
22	フィールドワーク	村瀬・原田
23	フィールドワークのまとめ：演習	村瀬・原田
24	フィールドワークのまとめ：討議	村瀬・原田
25	研究計画書の作成：文献検討の文章化	村瀬・原田

回数	内容	担当者
26	研究計画書の作成 : 文献検討の文章化	村瀬・原田
27	研究計画書の作成 : 文献検討の文章化	村瀬・原田
28	研究計画書の作成 : 研究方法についての文章化	村瀬・原田
29	研究計画書の作成 : 研究方法についての文章化	村瀬・原田
30	研究計画書の発表	村瀬・原田

授業方法

- ・第1回～第17回：講義、発表、討議（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）
- ・第18回～第22回：フィールドワーク
- ・第23回～第30回：講義、発表、討議

時間外学習

本科目では、学習内容に関する文献等を事前に熟読し、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。授業後は、授業内容を振り返り、理解を深めて今後の学習課題を設定する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

受講態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔55%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

研究・教育者コース必修

精神科治療と看護	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・石黒 千映子・平野 千晶・山田 浩雅・加藤 明美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護介入として、対象のライフステージに応じた精神領域の個別のセラピーができるために、精神領域で適用される、身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について学ぶ。

【到達目標】

1. 身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について説明できる。
2. 心理社会的療法について、訓練を受けた専門家が言語を用いて実施する精神心理療法と病理に直接働きかける療法について概念・理論・研究・実践の基本を理解できる。
 - (1) 精神心理療法（精神分析、交流分析、実存主義的アプローチ、認知行動療法など）について説明できる。
 - (2) 表現療法、イメージ療法について説明できる。
 - (3) 広義の精神療法として集団・家族・環境療法や補完・代替療法について説明できる。
 - (4) 療法の各ライフステージへの適用、適切な看護介入について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス 精神科治療と高度実践看護師の役割	村瀬・加藤
2	身体医学療法	平野 千晶
3	精神科薬物療法（その1）：薬理的観点から精神科薬物療法の歴史、精神科薬物療法（主に統合失調症、双極性障害）の作用・有害事象、分類	村瀬 智子
4	精神科薬物療法（その2）：薬理的観点からリエゾン精神医学における薬物療法（不安状態、抑うつ状態、不眠状態、せん妄状態）や抗がん剤の作用・有害事象、分類	村瀬 智子
5	精神科薬物療法（その3）：看護学的観点から薬物療法を受ける患者に対する高度実践看護師のアセスメントと役割	山田 浩雅
6	社会・心理的療法（その1）：精神分析、交流分析	石黒 千映子
7	社会・心理的療法（その2）：実存主義的アプローチ	石黒 千映子
8	社会・心理的療法（その3）：認知行動療法	石黒 千映子
9	社会・心理的療法（その4）：表現療法、イメージ療法	石黒 千映子
10	集団療法	村瀬 智子
11	家族療法	原田 真澄
12	環境療法	村瀬 智子
13	補完・代替療法	村瀬 智子
14	演習：精神科治療において、ライフスパンを幅広く包括する看護介入の重要性について検討する。	村瀬 智子
15	まとめ：治療における高度看護実践の方向性について討論する。 。討論全体の総括：主担当 教育・研究の視点提供：主担当 臨地実践の視点の提供：CNS他	CNS他 担当教員全員

授業方法

講義、発表、討論（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「Desk reference to the diagnostic criteria from DSM-5[TM]」, American Psychiatric Association, American Psychiatric Pub., 493.72/A44, 9780890425565
「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編, 染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071
「カウンセリングの理論」, 国分康孝著, 誠信書房, 146.8/Ko45, 4414403081
「グループサイコセラピー：ヤーロムの集団精神療法の手引き」, 新装版, Yalom, I. D. & Vinogradov, S. 著; 川室優訳, 金剛出版, 146.8/Y17, 4772405518
「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」, 宇佐美しおり, 野末聖香編, 日本看護協会出版会, N20/U92, 9784818014053
「専門看護師の思考と実践」, 専門看護師の臨床推論研究会編, 医学書院, N89/Se71, 9784260024006
「現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー」, 井部俊子, 村上靖彦編集, 医学書院, N89/I11, 9784260038867
その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、プレゼンテーション〔50%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

精神健康行動ケア特論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・服部 希恵・牛山 喜久恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神保健医療を、メンタルヘルス・リエゾンを含めた幅広い視点でとらえ、精神保健医療チームの中で精神看護専門看護師として卓越した高度実践のために必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論、セルフケア、ストレスマネジメント、リエゾン精神看護といった基礎概念や理論をライフスパンの視点を通して理解できる。
2. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論の効果的な適用方法が理解できる。
3. 精神看護専門看護師の精神科看護及びメンタルヘルスにおける役割の方向性や看護の課題、ケアの基準について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス(看護理論と看護モデル)/社会のニーズと精神看護専門看護師の役割と課題	村瀬 智子
2	精神力動理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
3	対人関係論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
4	行動システム理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
5	危機理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
6	セルフケア理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
7	発達理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
8	ストレス・コーピング理論、適応理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
9	レジリエンス理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
10	ストレングスモデルの理解と看護援助への適用	村瀬 智子
11	家族理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
12	環境看護論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
13	グループダイナミクスの理解と看護援助への適用	村瀬 智子
14	組織における看護師のメンタルヘルス支援	服部・村瀬
15	ターミナル期におけるこころのケア	牛山・村瀬

授業方法

講義、発表、討論(新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施)

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「リエゾン精神看護：患者ケアとナース支援のために」, 野末聖香編, 医歯薬出版, N20/N98, 9784263234501

参考図書

「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編; 染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071

「Desk reference to the diagnostic criteria from DSM-5[TM]」, American Psychiatric Association, American Psychiatric Pub., 493.72/A44, 9780890425565
その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

リエゾン精神看護論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・服部 希恵・平野 千晶			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

リエゾン精神看護の役割と機能、理論的枠組み、実践に必要な治療と技法などについて学ぶ。

【到達目標】

1. リエゾン精神看護の役割と機能について理解できる。
2. リエゾン精神看護実践に必要な理論を理解できる。
3. リエゾン精神看護実践に必要な治療と援助技法を理解し、事例を通して患者のアセスメントとケアへの活用方法を検討できる。
4. 精神看護専門看護師としての課題の明確化ができる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス リエゾン精神看護とは(歴史、リエゾンCNSの役割)	村瀬 智子
2	精神科病棟以外の入院患者の精神的問題の診断と治療(その1): 不安状態、抑うつ状態にある患者	平野 千晶
3	精神科病棟以外の入院患者の精神的問題の診断と治療(その2): せん妄状態、ターミナル期にある患者	平野 千晶
4	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その1): 不安状態、抑うつ状態にある患者	村瀬 智子
5	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その2): 不眠状態、せん妄状態にある患者	村瀬 智子
6	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その3): ターミナル期、ペインコントロールの問題を抱える患者	原田 真澄
7	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その4): 災害やPTSDの状態にある患者	原田 真澄
8	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(不安状態、抑うつ状態にある患者・家族)	服部 希恵
9	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(不眠状態、せん妄状態にある患者・家族)	服部 希恵
10	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(ターミナル期、ペインコントロールの問題を抱える患者・家族)	服部 希恵
11	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(災害やPTSDの状態にある患者・家族)	服部 希恵
12	患者や家族の問題に焦点をあてたコンサルテーション	村瀬 智子
13	看護師のメンタルヘルス支援	村瀬 智子
14	組織変革者としての精神看護専門看護師	村瀬 智子
15	まとめ 精神看護専門看護師の展望	村瀬・原田

授業方法

講義、発表、討論、演習(新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインで実施)

時間外学習

本科目では、精神看護学専門看護師コースとして必要不可欠なリエゾン精神看護の方法論について検討する。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。1回の授業について、1週間適度の予習復習時間が必要である。

教科書

「リエゾン精神看護：患者ケアとナース支援のために」，野末聖香編著，医歯薬出版，N20/N98，9784263234501

参考図書

「精神科看護：原理と実践」（看護学名著シリーズ），Stuart, G & Laraia, M著；安保寛明ほか監訳，エルゼビア・ジャパン，N20/St9，9784860348823

「Principles and practice of psychiatric nursing」,10th ed.，Gail Wiscarz Stuart編，Elsevier/Mosby，N20/St9/10th，9780323091145

「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」，American Psychiatric Association編；染矢俊幸他訳，医学書院，493.72/A44/5th，9784260019071

「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」，宇佐美しおり，野末聖香編，日本看護協会出版会，N20/U92，9784818014053

「専門看護師の思考と実践」，専門看護師の臨床推論研究会編，医学書院，N89/Se71，9784260024006

「現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー」，井部俊子，村上靖彦編集，医学書院，N89/I11，9784260038867

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

精神科治療と看護演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・平野 千晶			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神科における様々な治療技法を理解した上で、精神看護の専門家として、個人、家族および集団に対し、ライフスパンにおいて対象を捉え、急性期、回復期、維持期といった障がいの回復段階に応じて、卓越した働きかけを行うために必要な知識と支援方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 統合失調症における精神科薬物療法について、障がいの回復段階に応じた治療技法を理解し、ライフスパンにおいて対象を捉え、看護場面において卓越した実践を行うための支援方法を検討することができる。
2. 双極性障害における精神科薬物療法について、障がいの回復段階に応じた治療技法を理解し、ライフスパンにおいて対象を捉え、看護場面において卓越した実践を行うための支援方法を検討することができる。
3. 認知行動療法、集団療法、家族療法の活用を理解し、具体的な支援方法を考察できる。
4. 発達障害の診断・アセスメント・治療について理解し、発達障害をもつ患者（児）への外来支援や地域における家族支援について考察できる。
5. 環境療法、補完・代替療法の活用を理解し、具体的な支援方法を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス、精神障がいの回復段階に沿った高度看護実践	村瀬 智子
2	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（急性期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
3	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（回復期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
4	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（慢性期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
5	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（地域生活への移行期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
6	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 双極性障害 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
7	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 双極性障害 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
8	認知行動療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 認知行動療法の実際 認知行動療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
9	認知行動療法 生活技能訓練（SST）を用いた患者へのアプローチ（事例演習） SSTの実際 SSTを受ける患者への看護について検討	村瀬・原田

回数	内容	担当者
10	集団療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 集団療法（グループ）の実際 集団療法（グループ）を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
11	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
12	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
13	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
14	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
15	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
16	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
17	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（事例演習） 家族教室の実際 家族教室へ参加する家族への看護について検討	村瀬・原田
18	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
19	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
20	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
21	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
22	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
23	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害の診断・アセスメント・治療の実際 発達障害をもつ患者（児）の外来支援の実際 親子教室（見学） 発達障害	平野 千晶
24	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害の診断・アセスメント・治療の実際 発達障害をもつ患者（児）の外来支援の実際 親子教室（見学） 発達障害	平野 千晶
25	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害をもつ患者（児）の地域における家族支援、親子支援の実際 発達障害をもつ患者（児）と家族への看護について検討	村瀬・原田

回数	内容	担当者
26	環境管理-ミリューセラピー（環境療法）と急性期相互作用の治療的意義 回復過程と治療的環境、ケアの継続性と人のライフステージ	村瀬 智子
27	補完・代替療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 補完・代替療法の実際（呼吸法、筋弛緩法、アロマセラピー等） 補完・代替療法を受ける患者への看護について検討	村瀬 智子
28	補完・代替療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 補完・代替療法の実際（呼吸法、筋弛緩法、アロマセラピー等） 補完・代替療法を受ける患者への看護について検討	村瀬 智子
29	まとめ 精神科治療技法からひとつ選択し、臨床経験を踏まえ高度実践看護師の役割や課題についてプレゼンテーションし、討論する。	村瀬・原田
30	まとめ 精神科治療技法からひとつ選択し、臨床経験を踏まえ高度実践看護師の役割や課題についてプレゼンテーションし、討論する。	村瀬・原田

授業方法

講義、発表、討論、演習（見学を含む）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編; 染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071

「Desk reference to the diagnostic criteria from DSM-5[TM]」, American Psychiatric Association, American Psychiatric Pub., 493.72/A44, 9780890425565
その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、課題〔65%〕（プレゼンテーション〔45%〕、レポート〔20%〕）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神科治療と看護」の事前履修が望ましい。

精神看護援助方法の開発演習	1・2年 通年	2単位 (60時間)	選択必修
---------------	------------	------------	------

担当: 村瀬 智子・原田 真澄・服部 希恵

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度な看護実践において活用・応用力を養い、効果的な援助方法を開発する。

【到達目標】

1. 「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」のフィールドで実際に生じた、幅広い対象に対する事例に基づき、健康障がいの段階とリスク管理に関連した課題、対人関係に関連した課題、ライフスパンに関連した課題、保健医療施設およびチーム医療に関連した課題からテーマを選択し、文献（概念・理論・研究）とフィールドワーク（経験）により看護援助方法の開発について探究できる。
2. 治療環境としての施設のアセスメントにより把握した実習施設の特徴を踏まえて、治療的な相互作用の分析、入院、外来における患者と家族への直接ケア及び相談、調整、教育、倫理調整に関する事例や課題をテーマとして、高度実践を推進する力を養うことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス 施設機能分析と看護機能強化の焦点： フレームワークの提示と説明（地域、施設の特徴と人的資源、 連携、機能、施設内文化）	村瀬 智子
2	施設アセスメント演習： 学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、 治療的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	村瀬 智子
3	施設アセスメント演習： 学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、 治療的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	村瀬 智子
4	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：健康障がいの段階とリスク管理に関連した課題 精神看護学高度実践実習 - 実習施設：精神科病院：統合失調症、双極性障害、認知症、パーソナリティ障害、摂食障害、薬物・アルコール依存症等の事例から選択し、検討する。 精神看護学高度実践実習 - 実習施設：総合病院：慢性疾患（糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・腎臓系疾患等）を持ち、不安が強く適応障害を引き起こしている事例や、せん妄、ターミナルケアやグリーフケアが必要な事例から選択し、検討する。 精神看護学高度実践実習：上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 精神看護学高度実践実習：上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬・原田
5	精神看護学高度実践実習：上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 精神看護学高度実践実習：上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬・原田

回数	内容	担当者
6	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・原田
7	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・原田
8	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・原田
9	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・原田
10	<p>自殺に関連した課題と看護援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・自殺に対するアセスメント ・危機モデルを用いての検討 	村瀬 智子
11	<p>自殺に関連した課題と看護援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・自殺に対するアセスメント ・危機モデルを用いての検討 	村瀬 智子
12	<p>暴力とトラウマに関連した課題と看護援助:</p> <p>児童虐待・ドメスティックバイオレンス(DV)・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族、いじめ、不登校その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・虐待・DVに関連するアセスメント ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬 智子

回数	内容	担当者
13	暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族、いじめ、不登校その他 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・虐待・DVに関連するアセスメント ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬 智子
14	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：対人関係に関連した課題 対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
15	対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
16	対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
17	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：ライフスパンに関連した課題 <成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレングスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬 智子
18	<成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレングスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬 智子
19	<成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレングスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬 智子

回数	内容	担当者
20	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
21	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
22	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
23	<p>学生によるフィールドからの保健医療施設およびチーム医療における問題提起および検討</p> <p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
24	<p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
25	<p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
26	<p>多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
27	<p>多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子

回数	内容	担当者
28	多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他 ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討	村瀬 智子
29	社会参加支援プログラムに関連した課題と看護： ケアの継続、ネットワークづくりその他 ・社会参加支援プログラムの現状と課題についての検討 ・社会参加に向けて効果的なケアの継続方法と地域におけるネットワークづくりについて検討	原田 真澄
30	社会参加支援プログラムに関連した課題と看護： ケアの継続、ネットワークづくりその他 ・社会参加支援プログラムの現状と課題についての検討 ・社会参加に向けて効果的なケアの継続方法と地域におけるネットワークづくりについて検討	原田 真澄

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「Desk reference to the diagnostic criteria from DSM-5[TM]」, American Psychiatric Association, American Psychiatric Pub., 493.72/A44, 9780890425565
「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編；染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071
「ICD-10精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン」, 新訂版, World Health Organization編；融道男他監訳, 医学書院, 493.72/W67, 9784260001335
その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔45%〕、課題〔50%〕（ケースプレゼンテーション〔30%〕、ケースレポート〔20%〕）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年 通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護専門看護師（以下CNS）の役割と機能 直接ケア、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究 について、臨床の場でどのように実践しているかを学ぶ。

【到達目標】

1. 精神看護における高度実践者としてのCNSの役割と機能についてシャドウイングを通して理解し、具体的な活動について学ぶ。
2. 実習施設の組織とCNSの位置づけを知り、CNSへのニーズや役割遂行に必要とされる活動について、シャドウイングとディスカッションを通して理解し、役割開発について学ぶ。
3. 精神看護における高度実践者としてのCNSの役割と機能について、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせ、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>専門看護師の役割機能の実習 総合病院もしくは精神科病院において、CNSの6つの役割と機能についてシャドウイングを通して理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直接ケア：精神看護における高度実践者としてのCNSの卓越した直接ケアについてシャドウイングを通して学ぶ。 2. コンサルテーション：看護師を含むケア提供者へCNSが行うコンサルテーションについてシャドウイングを通して学ぶ。 3. コーディネーション：組織におけるCNSの位置づけと役割を理解し、保健医療福祉関連スタッフおよび関係機関との間で、必要性に応じて行われるコーディネーションについてシャドウイングを通して学ぶ。 4. 倫理調整：個人、家族、集団の権利擁護にかかわる倫理的問題や葛藤の解決に関する調整活動についてシャドウイングを通して学ぶ。 5. 教育：ケアの質の向上に必要と考えられるCNSが行う教育についてシャドウイングを通して学ぶ。 6. 研究：実習施設においてCNSが行う研究や研究支援についてシャドウイングを通して学ぶ。 <p>実習場所：名古屋第一赤十字病院 共和病院</p> <p>実習時期： セメスター（1年次後期）に実施する。</p>	村瀬・原田

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要であるそのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」, 宇佐美しおり, 野末聖香編, 日本看護協会出版会, N20/U92, 9784818014053

「リエゾン精神看護：患者ケアとナース支援のために」, 野末聖香編著, 医歯薬出版, N20/N98, 9784263234501

参考図書

「高度実践看護統合的アプローチ」, Hamric, Ann B. et al.; 中村美鈴監訳, へるす出版, N70/H26, 9784892699283

評価方法

1. 評価表 : 40% :
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 施設アセスメント評価 : 20%
3. 課題レポート評価 : 20%
4. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年 通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神疾患や精神的健康課題を持つ対象へのcareとcureを融合させた高度な看護実践へ適用する視点を培うために、精神科診断及び治療技術の実際について学ぶ。

【到達目標】

1. 精神科診断及び治療技術（薬物療法、認知行動療法、補完・代替療法、精神療法的面接法（個人・集団）、集団療法、家族療法、心理教育等）について、精神保健指定医や臨床心理士等の説明及び実際の場面から理解する。
2. 精神科診断及び治療技術を用いて精神疾患や精神的健康課題を持つ対象へのcareとcureを融合させた高度な看護実践へ適用する視点を培うことができる。
3. 精神看護における高度実践者としての精神科診断及び治療技術について、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせ、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>医療施設等における精神科診断・治療実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健指定医の説明と診察への見学を通して、精神科診断・治療技術（薬物療法・精神療法等）について学ぶ。 2. 精神保健指定医・臨床心理士等の説明と療法への見学を通して、精神科治療技術（認知行動療法、補完・代替療法、精神療法的面接法（個人・集団）、集団療法、家族療法等）について学ぶ。 3. 精神保健指定医・臨床心理士等の説明と見学を通して症状管理・症状マネジメント（患者、家族に対する心理教育）について学ぶ。 4. 医師・臨床心理士等の説明と緩和ケアチームの見学を通して、リエゾン精神医学の観点から診断・治療技術を学ぶ（指導担当の精神保健指定医が一般病院へ出向する際に同行）。 5. 上記1・2・3・4により、精神科診断・治療技術を理解し、看護実践へ適用する視点について学ぶ。 <p>実習場所：刈谷病院 刈谷豊田総合病院（指導担当の精神保健指定医が出向する際に同行）</p> <p>実習時期： セメスター（1年次後期～2年次前期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」, American Psychiatric Association編; 染矢俊幸他訳, 医学書院, 493.72/A44/5th, 9784260019071
「ICD-10精神および行動の障害: 臨床記述と診断ガイドライン」, World Health Organization編; 融道男他監訳, 医学書院, 493.72/W67, 9784260001335
「カプラン臨床精神医学テキスト: DSM-5診断基準の臨床への展開」, 第3版, ベンジャミンJ. サドック他編著, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 493.7/Ka61/3rd, 9784895928526
「標準精神医学」(Standard textbook), 第7版, 尾崎紀夫他編, 医学書院, 493.7/H99/7th, 9784260032469
「精神・心理症状学ハンドブック」, 第3版, 北村俊則著, 日本評論社, 493.72/Ki68/3rd, 9784535983861
「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」, 宇佐美しおり, 野末聖香編, 日本看護協会出版会, N20/U92, 9784818014053
「リエゾン精神看護: 患者ケアとナース支援のために」, 野末聖香編著, 医歯薬出版, N20/N98, 9784263234501
「高度実践看護統合的アプローチ」, Hamric, Ann B. et al.; 中村美鈴ほか監訳, へるす出版, N70/H26, 9784892699283

評価方法

1. 評価表 : 40%
 - ・実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
 - ・最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 課題レポート評価 : 40%
3. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年 通年	6単位 (270時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護分野において、精神科病院における精神疾患をもつ対象への複雑で高度な看護実践について、実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 精神看護分野において、精神科病院におけるケア困難な精神疾患を持つ対象（患者・家族）への直接ケアに必要な援助技術について理解できる。
2. 精神看護分野の直接ケアを、精神看護専門看護師（以下CNS）と担当教員のSupervisionを受けながら、看護面接を用いて実践できる。
3. 精神看護分野において実践した直接ケアを、学内の精神看護援助方法の開発演習の活動と組み合わせて総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>医療施設等における直接ケア実習 精神看護分野において直接ケアを計画し、看護実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院へ入院あるいは外来通院しているケア困難な精神疾患を持つ対象（統合失調症、双極性障害、認知症、パーソナリティ障害、摂食障害、薬物・アルコール依存症等）に対して、精神医学的診断・治療技術及び精神状態のアセスメントを理解し、セルフケア理論、精神力動理論などを活用して患者、家族、医療チームの状況をアセスメントし、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら直接ケアを実践する。 2. 直接ケアにおいて、セルフケア支援に必要とされる看護面接を、精神療法やカウンセリングなど対象に合わせた治療技術を用いて、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら実践する。 <p>実習病院：共和病院 実習時期： セメスター（1年次後期～2年次後期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」, 宇佐美しおり, 野末聖香編, 日本看護協会出版会, N20/U92, 9784818014053

参考図書

「高度実践看護統合的アプローチ」, Hamric, Ann B. et al. 著; 中村美鈴ほか監訳, へるす出版, N70/H26, 9784892699283

評価方法

1. 評価表 : 40%
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. ケーススタディ評価 : 10%
3. プロセスレコード評価 : 10%
4. 課題レポート評価 : 20%
5. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年 通年	6単位 (270時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

リエゾン精神看護分野において、総合病院における精神的健康課題を持つ対象（患者・家族・看護師）への複雑で高度な精神看護実践について、直接ケア、コンサルテーション及び看護チーム・多職種チーム内外へのコーディネーションを通して学ぶ。

【到達目標】

1. リエゾン精神看護において、総合病院におけるケア困難な精神的健康課題を持つ対象（患者・家族・看護師）への直接ケア、コンサルテーション及び看護チーム・多職種チーム内外へのコーディネーションを理解できる。
2. リエゾン精神看護分野の直接ケアを、精神看護専門看護師（以下CNS）と担当教員のSupervisionを受けながら、看護面接を用いて実践できる。
3. リエゾン精神看護分野のコンサルテーション及びコーディネーションを、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、実践できる。
4. リエゾン精神看護分野において実践した直接ケア、コンサルテーション及びコーディネーションを、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせて、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>専攻分野専門科目（リエゾン精神看護）領域における直接ケア実習 3単位分相当 リエゾン精神看護分野における直接ケアを計画し、高度な看護実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合病院へ入院あるいは外来通院しており、慢性疾患（糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・腎臓系疾患等）を持ち、不安が強く適応障害を引き起こしている患者や、せん妄、ターミナルケアやグリーフケアが必要な患者に対して、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら直接ケアを実践する。その際、担当ケースのアセスメントとともに組織分析を行う。 2. 直接ケアにおいて、セルフケア支援に必要とされる看護面接を、精神療法やカウンセリングなど対象に合わせた治療技術を用いて、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら実践する。 3. 不安や緊張が強い患者に対して、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、ニーズに合ったリラクゼーション技法及びアサーショントレーニング、認知行動療法などの治療技術を選択し、実践する。 <p>コンサルテーション・コーディネーション実習 1単位分相当 リエゾン精神看護分野におけるコンサルテーション及びコーディネーションを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、直接ケアの担当ケースに関するコンサルテーションを行う。 2. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、直接ケアの担当ケースに関する組織横断的な実践活動や、多職種カンファレンスへの参加等を通して、看護チーム・多職種チーム内外への連携の促進を図る等のコーディネーションを行う。その際、担当ケースのアセスメントとともに組織分析を行う。 3. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、メンタルヘルス支援としての看護師のコンサルテーションや、医療スタッフ間で起こる葛藤の調整などを、必要に応じて実践する。 <p>実習病院：名古屋第一赤十字病院 実習時期：セメスター（1年次後期～2年次後期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

「リエゾン精神看護：患者ケアとナース支援のために」, 野末聖香編著, 医歯薬出版, N20/N98, 9784263234501
「プロセス・コンサルテーション：援助関係を築くこと」, エドガー・H・シャイン著; 稲葉元吉他訳, 白桃書房, 361.4/Sc2, 9784561131403

参考図書

「高度実践看護統合的アプローチ」, Hamric, Ann B. et al. 著; 中村美鈴ほか監訳, へるす出版, N70/H26, 9784892699283

評価方法

1. 評価表 : 40%
 - ・実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
 - ・最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. ケーススタディ評価 : 10%
3. プロセスレコード評価 : 10%
4. 課題レポート評価 : 20%
5. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修
「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

地域看護学特論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三・小林 尚司・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活するすべての人々の健康増進、あるいは健康課題に焦点をあて、看護支援方法について探求する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の健康課題について説明することができる。
2. 地域で生活する人々の健康課題の背景について説明することができる。
3. 地域で生活する人々の健康課題への支援方法をPDCAサイクルにそって考察し記述することができる。
4. 地域で生活する人々の健康課題への支援における看護の機能・役割について考察し記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域で生活する人々の健康課題（ライフサイクル別にみた健康課題の概要）	長谷川 喜代美
2	地域の健康課題に対応する看護の機能・役割	長谷川 喜代美
3	行政サービスとして機能する看護	長谷川 喜代美
4	地域の環境と健康	森田 一三
5	地域における健康づくり活動	森田 一三
6	地域で生活する子ども（児童生徒）の健康課題と支援（学校保健活動）	森田 一三
7	地域で生活する医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題	岡田 摩理
8	地域で生活する医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援	岡田 摩理
9	地域で生活する成人期の人々の健康課題	長谷川 喜代美
10	地域で生活する成人期の人々への支援	長谷川 喜代美
11	地域で生活する高齢者の健康課題（予防的視点から）	小林 尚司
12	地域で生活する高齢者への支援	小林 尚司
13	地域で生活する人々の感染症予防に関する課題	長谷川 喜代美
14	地域で生活する人々の感染症対策における看護支援	長谷川 喜代美
15	まとめ	長谷川 喜代美

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。（各1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30%）、参加状況（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。
課題レポートに教員のコメントを記載して学生に返却する。

その他

なし

コミュニティアセスメント論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域看護活動の基盤となるコミュニティアセスメントの意義を理解し、地域看護活動の効果的な展開方法を探索する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の日常生活を把握する視点および把握方法を説明することができる。
2. 既存の保健統計からコミュニティの特性（現状）を把握する方法を説明することができる。
3. コミュニティの健康課題を明確にする方法を説明することができる。
4. コミュニティの健康課題への対応方法（地域保健活動計画等の立案方法など）を説明することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コミュニティアセスメントの意義	長谷川 喜代美
2	コミュニティアセスメントの視点（個人の把握・地域の把握）	長谷川 喜代美
3	コミュニティアセスメントのプロセス・方法	長谷川 喜代美
4	コミュニティアセスメントに必要なデータ収集と分析	森田 一三
5	コミュニティアセスメントの理論・モデル	長谷川 喜代美
6	コミュニティの健康指標の活用方法	森田 一三
7	コミュニティの健康指標を用いた分析の実際 : 自治体	長谷川 喜代美
8	コミュニティの健康指標を用いた分析の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川 喜代美
9	コミュニティにおける生活状況、保健行動の把握の分析の実際 : 自治体	長谷川 喜代美
10	コミュニティにおける生活状況、保健行動の把握の分析の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川 喜代美
11	コミュニティの健康課題の明確化の実際 : 自治体	長谷川 喜代美
12	コミュニティの健康課題の明確化の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川 喜代美
13	コミュニティの健康課題への対応方法（活動計画）検討の実際 : 自治体	長谷川 喜代美
14	コミュニティの健康課題への対応方法（活動計画）検討の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川 喜代美
15	まとめ	長谷川 喜代美

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。（各1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（50%）、参加状況（30%）、課題レポート（20%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他
なし

地域共生ケアシステム論	1年 後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活する人々の健康課題を理解し、人々の生活の質を向上させるために必要な支援およびそれらの支援を有効に機能させる地域ケアシステムについて考察する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の健康状態を説明することができる。
2. 地域で生活する人々の健康と生活の関連を分析し、健康課題を説明することができる。
3. 地域で生活する人々の健康課題の解決に必要な地域ケアシステムの構築手順を説明することができる。
4. 地域で生活する人々の生活の質向上に向けて現代社会の課題に対応する地域ケアシステムの構築のあり方を考察することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域で生活する人々の健康状態 : 母子	長谷川 喜代美
2	地域で生活する人々の生活状況 : 母子	長谷川 喜代美
3	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 母子	長谷川 喜代美
4	地域で生活する人々の健康状態 : 成人	長谷川 喜代美
5	地域で生活する人々の生活状況 : 成人	長谷川 喜代美
6	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 成人	長谷川 喜代美
7	地域で生活する人々の健康状態 : 高齢者	長谷川 喜代美
8	地域で生活する人々の生活状況 : 高齢者	長谷川 喜代美
9	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 高齢者	長谷川 喜代美
10	健康をまもるための地域づくり	長谷川 喜代美
11	地域ケアシステムとは何か	長谷川 喜代美
12	地域ケアシステム構築のプロセス	長谷川 喜代美
13	地域ケアシステム構築の実際 : 母子	長谷川 喜代美
14	地域ケアシステム構築の実際 : 成人・高齢者	長谷川 喜代美
15	まとめ	長谷川 喜代美

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。(各1週間程度)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(50%)、参加状況(30%)、課題レポート(20%)で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

地域看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域看護に関する現象について理解を深め、地域看護に関する課題及び課題への対応方法を追究する能力を養う。

【到達目標】

1. 地域看護に関する現象の追究に活用可能な看護で用いられるコンセプト(概念)を説明することができる。
2. 学生が関心を持っている地域看護に関する課題を設定し、課題の背景を論理的に説明することができる。
3. 学生が設定した地域看護に関する課題について、文献検討並びに関係者へのインタビュー等により、課題の実態、対応方法の現状、及び看護職者に期待される役割を分析し記述することができる。
4. 上記3の分析をふまえ、研究により追究すべき課題を検討し論理的に記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、地域看護の特徴・意義	長谷川 喜代美
2	コンセプト(概念)分析の方法	長谷川 喜代美
3	コンセプト(概念)分析の方法	長谷川 喜代美
4	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
5	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
6	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
7	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
8	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
9	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
10	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
11	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田
12	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田
13	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田
14	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田
15	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田
16	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
17	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
18	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
19	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
20	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
21	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田
22	地域看護に関する課題の分析: 課題の整理・構造化	長谷川・森田
23	地域看護に関する課題の分析: 課題の整理・構造化	長谷川・森田
24	地域看護に関する課題の分析: 文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田
25	地域看護に関する課題の分析: 文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田
26	地域看護に関する課題の分析: 文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田
27	地域看護に関する課題の分析: 文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田
28	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田
29	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田
30	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田

授業方法

第1～3回 講義、第4～30回 演習（文献講読、発表、討議など）

時間外学習

授業前には、学習内容に関する文献等を熟読・理解し、参加準備・プレゼンテーションの準備をする。授業後は、授業内容を振り返り理解を深めて今後の学習課題を設定する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（40%）、参加状況（30%）、課題レポート（30%）で評価する。

フィードバック

演習の中でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学特論	1年 前期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

自然、人為、複合的な災害因により発生する災害の現象をサイクルという継続的な視点でとらえ、災害が人間や人々を取りまく社会に及ぼす影響を学ぶ。そのうえで防災体制、災害医療や看護を概観し、災害サイクルにおける医療・看護の役割・課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害因による予測される人々やその生活、社会への影響を説明できる。
2. 防災・減災体制を説明できる。
3. 災害サイクルにおける医療・看護活動の課題と倫理について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 災害と災害発生状況・被害の変化	小林 洋子
2	自然災害と社会・人々への影響	小林 洋子
3	人為災害と社会・人々への影響	小林 洋子
4	特殊災害と社会・人々への影響	花木 芳洋
5	防災・減災の歴史, 防災・減災体制	花木 芳洋
6	災害救援の歴史, 災害救援体制	花木 芳洋
7	災害看護の歴史, 災害看護学の発展	小林 洋子
8	災害サイクルに沿った救援活動・看護活動の課題と倫理	小林 洋子

授業方法

- ・第1回～第7回：講義 第8回：発表・討論

時間外学習

- ・授業参加の準備, プレゼンテーションの準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

- 「原発災害とアカデミズム：福島大・東大からの問いかけと行動」(2013), 福島大学原発災害支援フォーラム他著, 合同出版, 543.5/F84, 9784772611077
- 「自然災害と復興支援」(みんぱく実践人類学シリーズ9), 林勲男編著, 明石書店, 369.3/H48, 9784750331225
- 「東日本大震災石巻災害医療の全記録：「最大被災地」を医療崩壊から救った医師の7ヵ月」(ブルーバックスB-1758), 石井正著, 講談社, 498.89/175, 9784062577588
- 「看護白書 平成24年版：災害時における看護の力・組織の力」, 日本看護協会, 日本看護協会出版会, N05.9/N77/'12, 9784818016880
- 「災害社会学入門」(シリーズ災害と社会1), 大矢根淳他編, 弘文堂, 369.3/Sa17/1, 9784335501012
- 「Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards」, 4th ed., Veenema, TG, Springer Publishing Company, N10.51/V53/4th, 9780826144171
- 「大災害と法」(岩波新書, 新赤版 1375), 津久井進著, 岩波書店, 080/195/1375, 9784004313755

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害と法律・制度	1年 前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子・山崎 栄一			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

国内外の災害に関する法律や制度を学び、災害看護活動における法律や制度の活用と課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害に関する法律，制度を理解する。
2. 災害看護に関連する法律，制度について災害看護の実践場面における活用を考えられる。
3. 災害看護に関連する法律や制度の視点から現在の災害対策の課題を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：災害に関する法律と制度	小林・山崎
2	赤十字の災害救援と法律・制度上の課題	小林 洋子
3	法体系と制度，法の制定過程	山崎 栄一
4	防災・減災に関する法律と制度	山崎 栄一
5	防災・減災に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
6	災害発生時に関する法律と制度	山崎 栄一
7	災害発生時に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
8	被災者支援に関する法律と制度	山崎 栄一
9	被災者支援に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
10	災害復興に関する法律と制度	山崎 栄一
11	災害復興に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
12	大規模災害に関する法律と制度、課題	山崎 栄一
13	世界の防災	山崎 栄一
14	救援活動における行動規範	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

授業方法

- ・第1回～第14回：講義、第15回：発表・討議

時間外学習

- ・授業参加の準備，プレゼンテーションの準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

「最新防災・復興法制：東日本大震災を踏まえた災害予防・応急・復旧・復興制度の解説」，佐々木昌二著，第一法規，369.3/Sa75，9784474057586

参考図書

- 「災害復興法学」(2014年・2018年)，岡本正著，慶應義塾大学出版会，369.3/042/1,2，4766421639,4766425367
- 「防災法」(法律学講座)，生田長人著，信山社，369.3/139，9784797280449
- 「自然災害と被災者支援」，山崎栄一著，日本評論社，369.3/Y48，9784535519527
- 「自然災害と復興支援」(みんぱく実践人類学シリーズ9)，林勲男編著，明石書店，369.3/H48，9784750331225
- 「大災害と法」(岩波新書,新赤版 1375)，津久井進著，岩波書店，080/195/1375，9784004313755
- 「看護白書 平成24年版：災害時における看護の力・組織の力」，日本看護協会編，日本看護協会出版会，N05.9/N77/'12，9784818016880
- 「演習で学ぶ災害看護」，小原真理子監修，南山堂，N10.51/027，9784525502614
- 「Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards」,4th ed., Veenema,TG, Springer Publishing Company, N10.51/V53/4th，9780826144171

評価方法

レポート(80%)、プレゼンテーション(20%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学対象論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・村瀬 智子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域に生活する人々、災害により心身や生活に影響を受けた人々、および災害救援に関わる人々を個として集団としてとらえ、看護の対象を全体として理解するうえで必要な諸理論を学ぶ。また、文献を通して被災者の立場、救援者の立場から、それぞれを理解する。

【到達目標】

1. 災害看護の対象に関連する諸理論を理解できる。
2. 災害から影響を受ける人々、特に要配慮者を理解できる。
3. 被災者の生活環境の特徴と、その特徴がおよぼす健康問題及び被災者を理解できる。
4. 災害救援活動により影響を受ける災害救援者、支援者を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 災害看護の対象	小林 洋子
2	地域住民, 災害の認識と対応	藤井 愛海
3	災害時要配慮者・災害時避難行動要支援者, 災害の認識と対応	小林 洋子
4	災害看護の対象理解と理論(1)-1 危機理論	藤井 愛海
5	災害被災者と健康(2)-1 居住環境	小林 洋子
6	災害被災者と健康(2)-2 文化背景	小林 洋子
7	災害被災者と健康(2)-3 食生活	小林 洋子
8	災害看護の対象理解と理論(1)-2 ストレス理論	村瀬 智子
9	災害被災者と健康(1)-3 災害の衝撃, 喪失(グリーフを含む)	村瀬 智子
10	災害被災者と健康 まとめ	小林・長尾・藤井
11	災害と災害救援者, 支援者, 災害の認識と対応	長尾 佳世子
12	災害看護の対象理解と理論(3) 役割理論	小林 洋子
13	災害救援者の役割認識と活動環境	長尾 佳世子
14	支援者の役割認識と活動環境	長尾 佳世子
15	災害救援者, 支援者の役割認識 まとめ	小林・長尾・藤井

授業方法

- ・第1回～9回：講義 第10回：発表・討議 第11回～14回：講義 第15回：発表・討議

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「災害の襲うとき：カタストロフィの精神医学」，ビヴァリー・ラファエル著；石丸正訳，みすず書房，369.3/R17，4622036320
「演習で学ぶ災害看護」，小原真理子監修，南山堂，N10.51/027，9784525502614
「3・11福島から東京へ：広域避難者たちと歩む」，東京災害支援ネット編著，山吹書店，369.36/To46，9784906839261
「Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition」，「Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards」，4th ed.，Veenema,TG，Springer Publishing Company，N10.51/V53/4th，9780826144171
「自然災害と復興支援」（みんぱく実践人類学シリーズ9），林勲男編著，明石書店，369.3/H48，9784750331225
「アンダーグラウンド」，村上春樹著，講談社，916/Mu43，9784062085755
「子どもの悲しみとトラウマ：津波被害後に行われたグループによる支援活動」，BRIS モニカ・ホルム編；谷沢英夫訳，新評論，493.937/B73，9784794809728
「心のケア：阪神・淡路大震災から東北へ」（講談社現代新書2121），加藤寛，最相葉月著，講談社，080/Ko19/2121，9784062881210

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学援助論	1年 前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・下間 正隆・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害発生から復興の時期に、援助環境を理解するとともに、多職種や関連機関との効果的な援助活動に向けた連携のあり方、および対象や状況をアセスメントし生活の視点から必要な看護援助を考察する。また、看護援助の提供にあたり、赤十字の原則や対象の自立の視点から提供方法を探求する。

【到達目標】

1. 災害時における医療・看護の基本的対応を理解できる。
2. 救護所、避難所、病院における救護体制の設営・運営を理解できる。
3. 災害時、救援に関わる他専門職、関連機関との連携方法を考察できる。
4. 災害発生から復興期における対象を理解した看護実践を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	災害急性期から復興期の看護活動 災害看護における組織論, 体系的対応(CSCATTT)	長尾 佳世子
2	災害救援に関わる他専門職, 関連機関との連携	長尾 佳世子
3	災害看護におけるトリアージ, 要援護者トリアージ	花木 芳洋
4	災害時のトリアージにおける課題	花木 芳洋
5	災害看護におけるこころのケアと課題	長尾 佳世子
6	災害看護におけるセルフケア理論, 災害被災者ニーズアセスメント	小林 洋子
7	災害時のニーズアセスメント, 支援における課題	小林 洋子
8	被災病院における救護体制設置と看護活動	長尾 佳世子
9	被災病院における救護体制設置と外部支援者との協力	長尾 佳世子
10	救護所・避難所の設営・運営と在宅避難者への看護活動	小林・長尾
11	救護所・避難所の設営・運営, 在宅避難者への看護活動上の課題	小林・長尾
12	災害時の感染症, 感染防止対策	下間 正隆
13	災害時の感染防止対策における課題	長尾 佳世子
14	特殊災害と看護(1)原子力災害の影響	小林 洋子
15	特殊災害と看護(2)原子力災害による影響軽減への対応と課題	小林 洋子

授業方法

第1回～5回：講義 第6回：発表・討議 第7回～8回：講義 第9回：発表・討議
第10回～15回：講義

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「東日本大震災とこころのケア」(雑誌「精神医療」第4次64号)，浅野弘毅，岡崎伸郎責任編集，批評社，369.31/Se19/64，9784826505482
「大災害に立ち向かう世界と日本：災害と国際協力」，大災害と国際協力研究会著，佐伯印刷，369.3/D14，9784905428350
「事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア」，黒田裕子，神崎初美著，日本看護協会出版会，N10.51/Ku72，9784818016804
「災害時の健康支援：行動科学からのアプローチ」，災害行動科学研究会他編，誠信書房，498.89/Sa17，9784414802061
「緊急対応ハンドブック：日本語版」，第2版，国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)，UNHCR日本・韓国地域事務所，369.38/Ko49/2nd
<https://www.unhcr.org/jp/handbook>
「スフィアハンドブック2018：人道憲章と人道支援における最低基準：日本語版」，第4版，Sphere Project編，JQAN(支援の質とアカウントビリティ向上ネットワーク)，R0.11/Sp4/'18，https://jqan.info/sphere_handbook_2018/，9784991102103
「災害・紛争等緊急時における精神保健・心理社会的支援に関するIASCガイドライン」，IASC，IASC，<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/iasc.html>
「ICN Framework of Disaster Nursing Competencies」，World Health Organization and International Council of Nurses，World Health

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学援助論	1年 後期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害静穏期に病院、行政、地域、救護組織における防災・減災体制および災害に備えた教育活動を学び、災害静穏期における看護援助方法、および看護師の役割を探求する。

【到達目標】

1. 静穏期の病院、行政、地域における防災・減災計画、救援体制を説明できる。
2. 静穏期における災害救援関連機関との連携を説明できる。
3. 静穏期の災害に備えた防災・減災教育活動を説明できる。
4. 静穏期の防災・減災活動における看護職の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：災害静穏期の看護活動	小林 洋子
2	災害看護における学習理論，経験学習理論	小林 洋子
3	防災・減災教育と課題(1)：地域住民	藤井 愛海
4	防災・減災教育と課題(2)：専門職	長尾 佳世子
5	地域住民との連携，救援組織との連携と課題	藤井 愛海
6	非常持ち出し・非常食の備蓄、資機材の点検整備と課題	長尾 佳世子
7	災害救護訓練(救護所開設)の観察	長尾 佳世子
8	まとめ，災害静穏期における看護師の役割	小林・長尾・藤井

授業方法

第1回～2回：講義 第3回～4回：発表・討議 第5回～6回：講義 第7回：見学
第8回：討議

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

「看護白書 平成24年版：災害時における看護の力・組織の力」，日本看護協会編，日本看護協会出版会，N05.9/N77/'12，9784818016880
「演習で学ぶ災害看護」，小原真理子監修，南山堂，N10.51/027，9784525502614
「Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards」，4th ed.，Veenema,TG，Springer Publishing Company，N10.51/V53/4th，9780826144171
「自然災害と復興支援」(みんぱく実践人類学シリーズ9)，林勲男編著，明石書店，369.3/H48，9784750331225

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学演習	1年 後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害看護学に関する研究文献の検討を通して災害看護学の研究にかかわる概念や理論への理解を深め、災害看護実践における災害看護学研究の課題を考察する。明らかにされた災害看護学研究の課題についてフィールドワークを通して明確にするとともに探求方法を考察する。

【到達目標】

1. 災害看護学に関する文献を系統的に検索できる。
2. 文献をクリティークし、要約を記述できる。
3. 災害看護学の課題を探求する研究方法が理解できる。
4. フィールドワークを通して課題の探求方法を理解できる。
5. 課題を探求する研究計画書が理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 災害看護学研究の動向	小林・長尾・藤井
2	文献検索方法	小林・長尾・藤井
3	文献クリティークの方法 : 対象文献の理解	小林・長尾・藤井
4	文献クリティークの方法 : 研究過程との比較	小林・長尾・藤井
5	文献クリティークの方法 : 研究の要素と研究の論理性	小林・長尾・藤井
6	文献クリティークの方法 : 先行研究と研究段階の評価	小林・長尾・藤井
7	文献クリティークの方法 : 倫理的配慮	小林・長尾・藤井
8	文献クリティークの方法 : 文献クリティーク結果の記載	小林・長尾・藤井
9	文献検索: 演習	小林・長尾・藤井
10	文献クリティーク: 演習	小林・長尾・藤井
11	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
12	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
13	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
14	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
15	研究計画の立案	小林・長尾・藤井
16	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
17	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
18	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
19	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
20	研究課題, 研究目的	小林・長尾・藤井

回数	内容	担当者
21	フィールドワークガイダンス	小林・長尾・藤井
22	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
23	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
24	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
25	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
26	フィールドワークのまとめ：演習	小林・長尾・藤井
27	フィールドワークのまとめ・討議	小林・長尾・藤井
28	研究計画の検討：研究デザイン	小林・長尾・藤井
29	研究計画の検討：概念と概念枠組み	小林・長尾・藤井
30	研究計画の検討：研究方法と倫理的配慮	小林・長尾・藤井

授業方法

第1, 2, 15, 21回：講義．第3～14回, 第16～20回, 第26～30回：発表・討議．第22～25回：フィールドワーク

時間外学習

災害看護に関する関心のテーマについて検索し、関連文献を読む(適宜)。
プレゼンテーションおよび討議への参加の準備を行う(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

課題レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議への参加(30%)

フィードバック

プレゼンテーションの際にその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学実習	1・2年 通年	1単位 (45時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期、復興期において、病院、行政、地域、救護組織の防災・減災体制および災害に備えた看護活動、看護援助方法の参加観察を通して、防災・減災体制や災害に備えた看護活動を考察する。

【到達目標】

1. 静穏期、復興期における病院、行政、地域、救護組織の防災・減災計画、救援体制が説明できる。
2. 静穏期、復興期における災害に備えた看護活動が説明できる。
3. 防災・減災教育、救護訓練から静穏期・復興期および災害発生直後の関連機関との連携を説明できる。
4. 静穏期、復興期、および災害が発生した際の看護職の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設における防災・減災計画、体制、看護活動について説明を受ける。 2. 実習施設における防災・減災計画に基づく、備えを見学する。 3. 日常の業務と災害への備えの関連、および職員の協働体制を参加観察する。 4. 防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加する。 5. 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する。 	小林・長尾・藤井

授業方法

1. 実習施設：
履修学生が、実習目的・目標に基づき実習施設を選択する。
2. 実習の進め方
 - 1) 履修学生は自己の実習目的・目標に基づき実習施設を選定する。
 - 2) 1)について、教員の助言を得て実習施設を決定する。
 - 3) 実習目的・目標に基づき実習指導者と打ち合わせを行い、実習する。
 - 4) 実習中、実習目標の達成を評価し、実習指導者と討議しながら実習をすすめる。
 - 5) 実習終了時、実習目標の達成を評価し、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方に関する課題を明らかにする。

時間外学習

既習学習および、自己の実習目標にそって参考資料・文献を用いて実習参加の準備を行う。また、実習終了後は、実習中に生じた疑問を探索し、次の実習時に実習の指導者や教員と討議し深めるための準備を行う(適宜)。

教科書

特に指定しない。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

レポート(70%)、実習記録 (20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

学生の実習記録、およびカンファレンスの場でフィードバックする。

その他

なし

課題研究	1・2年 通年	2単位 (60時間)	選択
担当: 松浦 正子・大西 文子・岡田 摩理・村瀬 智子・南谷 志野・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門領域に関する看護実践上の課題を探究し、研究計画の立案と実施および論文をまとめる過程を通じて基礎的な研究能力を修得する。

【到達目標】

1. 専門領域に関する看護実践上の課題について、文献検討や講義・演習・実習における学修から明らかにすることができる。
2. 専門領域に関する看護実践上の課題を探究するための適切な研究計画を立案することができる。
3. 妥当な方法でデータの収集と分析をすることができる。
4. 研究成果を論文にまとめることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1～7回	看護実践上の課題の明確化 研究テーマの検討 研究目的の検討	担当教員全員
8～15回	研究計画の立案 研究方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書の作成	
16～30回	データ収集・分析・課題研究論文の作成	

授業方法

主指導教員と副指導教員がゼミ形式で指導を行う。

時間外学習

関連科目の学修成果を基にして、指導内容を踏まえて主体的・自律的に研究を進める。
(適宜)

教科書

指導教員から適宜提示する。

参考図書

指導教員から適宜提示する。

評価方法

課題研究論文審査基準を参考に、総合的に評価する。

フィードバック

研究の過程に沿って随時フィードバックする。

その他

専門看護師コース必修
認定看護管理者コース必修

特別研究	1～2年 通年	8単位 (240時間)	選択
担当: 山田 聡子・鎌倉 やよい・松浦 正子・東野 督子・野口 眞弓・大西 文子・岡田 摩理・村瀬 智子・長谷川 喜代美・小林 尚司・森田 一三・小林 洋子・南谷 志野・中島 佳緒里・長田 知恵子・原田 真澄・清水 みどり・下間 正隆			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

文献検討やフィールドワークを通して各自の疑問から看護学及び看護実践に貢献する専門領域の研究課題を探究し、研究計画の立案と実施および論文をまとめる過程を通じて基礎的な研究能力を修得する。

【到達目標】

1. 各自の疑問から看護学及び看護実践に貢献する専門領域の研究課題を明らかにすることができる。
2. 適切な研究計画を立案することができる。
3. 妥当な方法でデータの収集と分析をすることができる。
4. 修士論文を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1～30回	研究課題の明確化 研究テーマの検討 研究目的の検討	担当教員全員
31～60回	研究計画の立案 研究デザインの検討 研究方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書の作成	
61～90回	データ収集・分析	
91～120回	データ分析・修士論文の作成	

授業方法

主指導教員と副指導教員がゼミ形式で指導を行う。

時間外学習

関連科目の学修成果を基にして、指導内容を踏まえて主体的・自律的に研究を進める。
(適宜)

教科書

指導教員から随時指定する。

参考図書

指導教員から随時指定する。

評価方法

修士論文審査基準を参考に、総合的に評価する。

フィードバック

研究の過程にそって随時フィードバックする。

その他

研究・教育者コース必修